Jun. 1899
No. 490

明治三十二年六月二十五日

女學雜誌

第四百九拾號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百九十號目次

◎社說
宗教公認論
基督教會時勢論問答
續海舟餘波（三）

◎女學
笑の文學（無識庵）
少年の讀もの（會話筆記）
妻の不平（懺悔露子）
高等女學校長會議
男女交も教ゆるは自然なり
平和會に不贊成の理由ありや

◎評論
女學雜誌は大乘に適たり（山月子）
逆境の福音（東根學人）

◎雜錄
ムーアがラストローズの歌を讀む（花影）
いかづち物語（三）久保猪之吉
千山万水（白水郎）
鬼面百相 第七）（有美狂生）

◎寄書
戀愛を論ろひて亡き友をしのぶ（百合）

◎通信
樂しき香港、美しき香港（下興南）
女社會學通信答報（信州南安曇郡東穗高、落葉）

◎時事
小坂象堂子を悼む
與行物の流行と讀書
めくら長屋の評判むすめ
西本願寺亦た人あらず哉

◎片々

◎報時

社告

◎本誌は毎月二回即はち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるるものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	壹冊定價	拾錢
	半年分定價	壹圓拾錢
	一年分定價	貳圓
	（内國無郵税）	

代金は總て前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事 但し其節は總て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事

廣告料	一行（廿七字詰）一回	前金拾錢
	同 三回以上	一割引
	同 六回以上	二割引

送金
送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるる人は總べて一割増にて計算せられたし

明治三十二年六月廿四日印刷
明治三十二年六月廿五日發行
發行兼編輯人 巖本善治
印刷人 布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所 女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場
（電話本局十九番）

女學雜誌社出版書目

巖本善治著 再版 海舟餘波 正價金三十錢 郵税金四錢

巖本善治著 吾黨の女子教育 正價金十錢 郵税金二錢

巖本善治著 公娼可滅 正價金三錢 郵税金二錢

島田三郎、植木枝盛二君合著 廢娼演説 正價金三錢 郵税金二錢

櫻井成明君譯 腓立比物語 正價金二十八錢 郵税金六錢

横山雅男君著 婚姻論 正價金十二錢 郵税金四錢

若松賤子君譯 再版 小公子 正價金三十五錢 郵税金八錢

故若松賤子英文集 英文 巖本嘉志子 正價金六十錢 郵税金六錢

布川靜淵、故小此木秀野君合著 俳諧史傳 正價金二十七錢 郵税金四錢

故鈴木弘恭君述 七版 百人一首講義 正價金二十八錢 郵税金四錢

同 文法口授 正價金十二錢 郵税金二錢

女學雜誌

明治三十二年六月二十五日發兌

第四百九拾號

社説

宗教公認論

宗教公認の論、天の一角より起り、風塵を捲いて、地の全面に走らんとする也。其の聲、佛教界に起る、其の響、各地に應ず。

夫れ、今の時勢に於て、佛教をもて國教となさしめんとするの愚なるは、論を待たず。其の行われざるとの明かなる、火を睹るよりも明けし。亦た何を顧慮するの價値あらんや。然りと雖ども、宗教公認の旨義は、其の佛教たると否とを問わず、今の士人の概むね見て不可なりとせざる所、乃わち是れ一辨なかる可らざるもの也。

凡そ、出世間は、世間に超越し、宗教は、國家よりも濶大なるべし。宗教流布の形跡に就いて、國家或ひは之を贊し、或ひは之を卑しむは、固と其の隨意のみ。宗教の本色何んぞ之によりて增減せんや。宗教は、國家に待つあるによりて衰ろふ。豈唯だ國家のみならんや、如何なるものにても、其の本尊以外のものに待つとき、乃わち衰ろふ。然るを況んや、自から公認を要むるとを爲すに於てをや。

國家の公認を求めんとするもの、若し公認せざる時、如何んせんとするの意ぞ。公認せらるゝの時、何等の利益ありとするの意ぞ。凡そ物、盛大なるときは、人之を認ためざるを得ず、たとひ認ためざらんとするも得んや。國家に促がして、宗教を公認せしめんとするは、國家をして自から公認せしむるに及かず。夫れ、自から公認せらるゝに至らんほどの勢力あらんとは、宗教の期圖する所なりと雖ども、素と之れ自から其公認を待つべきものならんや。況んや、之に迫り、之に求め、殆んど懇願哀求するの醜態を演するに於てをや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

凡そ、物盛んなれば必らず衰ろふ。殊に、強いて之を盛んにするものは、其の衰ろふるや早く、托して其盛を装はふものに至ては、衰ろふること尤とも速し。宗教たるもの、其の本尊の威靈を頼まず、其の理想の宏大を樂しまず、局促として俗界世間の雷應を欲し、且つ其の證明印認を希がわんとするに至ては、主力先づ枯れたり、之を奈何んぞ眞誠の隆興を期するを得んや。」凡そ、眞とに盛んにして、而て後ち認めらるる者あり。認めらるゝことを主として、而て盛を致さんとする者あり。最後の結果、容易に知るべき耳。今や、宗教にして自から奔走して國家の公認を求めんとす。是れ、宗教を驅つて國家の隸屬となす者、如何んぞ高逸超脱の抱負ありとせんや。斯の如き宗教の任ずる所ろ、知るべき耳。

試ろみに思へ、宗教は何によりて煥發し、亦、何によりて衰廢する。國家之に迫害を加ふる時、最とも煥發す、世俗其の勢力を認ためざらんとするも得んや。國家之に保護を與ふる時、最とも俗化す、世人其の腐敗を認ためざらんとするも得んや。嗚呼、宗教、國家によりて公認せられんことを欲する所のものは、抑そも何ものぞ。

基督教界時勢論問答

如雲

●基督教は餘程衰ろえた樣に見え升が、實際如何でせう。

◎ナゼ、衰ろえたと思ひなさるのです。元よりか贊成家が減つたのですか、信者が無なつたのですか、事業が衰微したのですか。

●衰ろへたと云ふとは、一般の輿論です。

◎其の輿論が愚論です。教會に出る人が減つたと云ふ丈けで衰ろへたと思ふのは、籠城するものが無いから愛國心が減つたと言ふと同じとです。前年、教會に出る人が多かつたのは、籠城したのです。城の中は人が多い樣だが、實は四面楚歌で敵に圍まれて居た柄で、仲間同士で勢ほひを着けて居たのだ。今はぶら／＼城の外まで散歩して、城外に朋友を持つ樣になつた。教會に人の少なくなつたは、教會外に贊成者が殖えた柄の事で、何も不思議は無いのです。

●スルト、基督教は、追々盛んになるものでせう乎。

◎何故、盛んにならないと思ひなさる乎、其の理由が先づ聞い、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たい程だ。維新の改革は、世界の大勢に壓倒された餘波の事業で、廣く天下の智識を採ると云ふ名目で、ドシ／＼海外の文明を輸入することゝなつたのです。多少の反動、多少の顧慮、多少の批評で、保守とか、國粹とか云ふ幾分の波瀾はあるとしても、夫は外來の勢が餘まり激し過ぎるからの事で、つまりは大躰に於て海外の文明を入れると云ふ勢ひに抵抗することが出來ないのである。殘念乍ら、日本は機先を制せられて居る。列國の勢ひから言ふと、後進國の姿勢を取つて居る。夫故、外國の文明で、其の善美なるものと定められて居るものなどの輸入を防ぐことは出來ないのである。假りに、基督敎の善惡適不適は別問題としても、其の大いに輸入せられんとして居る勢ひを防ぐことは出來ぬのである。ダカラ、基督敎が將來、日本に於て彌よ盛んになることは、勿論の事で、之を否なと言ふ人は、大勢の運びを見ることの出來ぬ人と言つて宜しいのである。夫故、吾輩などは、基督敎が日本に於て盛んになるか、ならぬかなどの問題を考へたことはない。ソンナ問題は、馬鹿々々しいことで、西洋の文明が日本に彌よ這入るだらふか、どうだらふかと言ふ問題と同じ程なもので、實は、餘程間拔な疑問だと思つて居る。

◉果して左樣だとすれば、眞ことにハヤ結構の事ですが、何んだか、ちと不確かに思はれるですテ。

◎勝手に思ひなさるが善いが、たゞ迂濶なお人だと言はれる丈の事です。ソレデ、吾輩の考へでは、基督敎の賛成家を殖すなどの事は、寢て居ても出來ます。實は、うつちやつて置く方が善いのです。初めて其敎門を輸入して、コンナものだと云ふことの大躰を廣告する丈は必要ですが、今日では既に其の時代は濟んで居ます。大凡の顔付は人に知られたから、此上は、人々のヒイキを受けると云ふ段であるが、ソレ位の事ならば、實は放つて置く方が善いのだと思つて居ます。總べて、何處の國にも、新らしもの好きと云ふ奴があるが、其の連中は不思議に輕率なものです。其連中が無暗に騒いで、生意氣なことを言つて、開けた風をすると、之に癪をさへて、反つてワザト反動して、古風の方にヒイキをすると云ふ一種俠骨のある一派が何所にもある。此の仲間こそ眞實の改進派で、決して譯の分らぬ頑固な事を言ふものではないのだが、只だ感情の上から、時として頑固の樣なことを言ふのである。抑も

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

之は餅に違いないが、兎に角、面白い餅で、先づ〳〵賴母しい方である。ソコデ、最初の宣言時代と違ひ、既に今日程となつたる時機に、たゞ賛成者をつくる位ひの事で、騒ぎ廻るのは寧ろ不得策だ。コンナ事は放つて置く方が反つて賛成家が出來る。前年、基督教徒が、佛教などに何の理屈も長所もない様に言つてる時代には、かの一派の連中は、反つて佛教の爲に辯護して居たが、今日、基督教が稍や衰ろへたと迄で言わるゝ様な態度を取る様になれば、彼の仲間は自然の本色に返つて、實は此の方に賛成するのである。

◉スルト、傳道に骨を折らないで善い。傳道師が寢て居れば、夫で教が開けると云ふとですか。

◎いつでも、寢て居ると云ふ譯ではありません。出なくて善い所ろに出て、ウロ〳〵して邪魔をする位なら、其時は寢て居てくれた方が善いではありませんか。既に、今日の時世となつたる以上は、賛成家を募る様な傳道でなく、個人銘々の信仰を高めて、眞とに其心の根底に福音を培養して行く、實際の傳道が急務であらふと言ふの主意です。然し、賛成家を募るのを、無益とも、有害とも申すのではない「我に恃かざるものは、我に來るもの也」で、賛成させるのは、既に傳道の第一歩で、最初の門關を破るとです。然し、今では最早ソンナ事に屈托しなくても好いから、傳道の本部とも云ふべき、個人靈魂の救ひの上に重きを置いて盡力したら宜しからふと云ふのです。此の傳道は、たとひ日本國人皆な賛成者になつたからとて、夫れで安心して止めると云ふべきものでない。何時でも、何程でも、限りのない程の苦勞をせねばならぬ傳道であり升

◉スルト、昔しからの傳道方で、別段變つた方と云ふものは無いのですかナ。

◎變つた方は色々ありませうが、既に方となつたものは、再たび模倣すべきものではありません。傳道の熱心と至誠とが、其の場合に應じて煥發し、適切恰好の働らきを爲すので、其の跡が方となるのであるから、此の方にまねた所ろが無益の事であり升。之に傚ふと彌よ上手にして、生命を去ると彌よ遠しと云ふのが、即わち是です。

◉左すれば、方と云ふものは、研究しなくて宜しいものです乎。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎研究は爲なければなりますまい、夫が學問であり升。たゞ學問は平生に於て爲すべきとで、實地に臨んで事を爲すときに、學問などゝ云ふ間隙があつてはなりますまい。夫で、平常は靜かに工夫し、精かに思案して、色々の方を考へるのです。コウすれば、コウ、あゝすればア、と、先づ擊劍の手を工夫するよふなもので、また其工夫がついたら、少しづゝ試ろみて見るので、夫等は皆な學問の區域、即わち研究でありませう。

●然らば、アナタは、どふ云ふ御工風がありますか。少し、伺がひたいものです。

◎あまり膝つめで恐れ入りますナ。色々考がへて居ますが、大躰、前にも申しました通り、基督教の大勢は、潮の押寄せる如く、洪水の汎濫する如く、いよ〳〵我國全面を覆ふものと見て、夫には少しも疑がひがないのですから、其の大勢を致すとには工夫も何もしませんナ。たゞ、其水を何處に、何如云ふ風に引入れよふか。コヽに溝をつくり、あそこに土手を築き、水の道をコンナ風に爲たらばどふだと云ふ樣なとに愚案を運らすのであり升。ちよつと申して見ると、繪畫、彫刻、音樂と云ふやうなものを、基督教に結び付ける工夫です。文學では、モウ少し成功したよふです。家屋の事にしても、之からは、床の間の活用です。佛壇と、神棚とを先取された以上は、一つ床の間の事を考へて置ねばなりますまい。夫から、會堂の建築美術で、今の會堂などは、言わば、出張所です、迚も會堂とするとは出來るものじヤアありません。先づ、平常の夢のよふな工夫とは、コンナ事です。

●佛教は、どふなりませう乎。

◎續きませう。まだなか〳〵ソウ急に亡びるものではありませんテ。眞言、天台から、淨土、日蓮に至る迄で、次第々々に新らしい宗派が出來ても、舊るいのが矢張り殘つて居ます。其形はよし衰ろへても、矢張り思想として嚴然殘るものです。基督教が之からの新宗派でせうが、之と同時に佛教は存在して、當分は神佛共存と云ふた時代と同じ樣な風になりませうよ。神、儒、佛の三つに今一つを加へて、鼎が四本足になるのです。所ろで、基督教の中に、坊守をやりこめたり、佛教を駁擊したりして、夫で能事了るかの如く思つてる人の往々あるのは、詰らないとです。コヽに百萬圓の金のある、

舊家があるとして見て、其息子がつまらない人物であるとしたら、吾輩でも議論をして之をやり込めるとは雜作ないです。然し、其の息子に勝つたからとて、其家に勝つとは出來ません。舊家の積善の餘德、多年の德望と云ふものがある。其のお蔭で、馬鹿な息子にしても、差支へなく家を立てゝ行くものである。今の人は、無暗に坊守を馬鹿にするが、その馬鹿げた坊守で、事が濟む所ろが如何にも恐ろしい。前年、或る所ろの寺に寄留して居た所ろが、其坊守の不行跡と言へば、話しにならぬ程であつた。壇下のものでも「あのナマクサ坊守めが」と輕蔑して居るが、扨て此の坊守でも、コロモを着て、ハイツ〳〵などと云ふと、急に有がたくなる。コロモをぬげば、詰らなく、コロモを着ると、有がたくなる。譯も分らぬ寐言の樣な事をウナルと、急に有がたくなる。吾輩は此の有さまを見て、ほと〳〵感心した。さて〳〵餘德と云ふものは、ひどいものだ。皆これ古人の赤誠、先哲の熱信が、活きて殘つて居るからの事で、コンナ馬鹿坊守でも、其のお蔭で殊勝に見へるのだと、古人を敬してひそかに落涙した。ソコデ、基督教の人が、其の教理が善いとか、文明流だとか言つた所ろが、是迄の潜勢力もなく、餘德もなく、椽の下にどれ程の力を埋めたと云ふともなくて、今の坊守を退治したから、夫で安心だなど〻思つては、モト〳〵見當違ひの事で、淺薄極まる覺悟です。

◎佛教は高尙で、基督教は卑近だ。佛教には深遠な哲學があるが、基督教には夫が無いと云ふ輿論で、一寸と學者風の男などに、極受けが惡るいですが、一躰どんなものですかナ。

◎よくある誤解で、氣の毒な藪睨みです。經と論との區別を知らぬからの事です。佛教でも、經には哲學はありません。佛教に限らず、經として、直覺的に敎え、專擅的に命じ、白明白の事として歌ふべき大平凡の敎に、哲學的の議論があるものではありません。夫は、經の爲に作つた「論」に於てあるのです。基督教では、其經とも云ふべきバイブル丈が人に讀まれて、而も、其の新約の方丈けが知れて居るから、之を淺薄だなど〻云ふのですが、其論とも云ふべき宗教哲學、即はち神學の講ずる所を聞かば、驚ろくに相違ないです。まだ此の「論」の方が日本に出版されて居ないから、コンナ說があ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るのですが、之を出版せしむる最大動機は「基督教は卑近だ、淺薄だ」と云ふ誤解の議論にあるのです。ソンナ議論が多くあるのは、マヅ祝すべき事です。

續海舟餘波（三）

●『學者は國家の裝飾なり』と言つて、化粧品一般に見做し、「漢公元來書を讀まず」の躰裁で、英雄無學の風貌を爲て居らるゝこと故、大凡の人は、海舟先生の學力を窺ひ知ることが出來なかつたが、其の博覽博學は驚ろくべきほどで、加之、一度び見聞したることを忘れぬと云ふ强記の質ゆへ、學力に至ても亦た非凡であつた。然し、其學力は言ふ迄もなく經世家の學力で、所謂ゆる學者風の學力でなかつたから、文字古歷に拘泥する一種の本讀連中から見れば、無論可笑しな所ろが多くあるので、佐久間象山の如きですら、曾ては海舟先生に向つて「足下は無學でイカン」などと言われたこともあるそふな。其時、先生は默つて居られた相なが、象山は、其後先生の非凡なる卓識に感服して、「足下は、何時の間にソウ云ふ學問をせられた乎」などと言われた相ナ。スルト、先生の之に對する返答は、例の口調で、『あまり、いま／＼しいから、ソウ言つてやつた「私などは、三文學問は嫌ひですから、ちつとも爲ませんよ」ッテ。いやな顔をして居たよ。』

●『今の人は、理想と云ふものがないのだ』『學問と云ふものは、一生がかりで、死んで初めて止むものだよ』などと、屢ば言われたことがあつた。先生の得意の句で、又、數度、我輩などに書いて與へられた語に。情究宇宙理、學貫天人際。此の終りの「學貫」の句は、特に愛して居られた樣に見えた。

●『何の本ッテ、撰ぶとは爲ない、手あたり放題サ』と云ふとで、手當り放題に、何んでも讀まれるので、明治三十年まで少しも休まれなかつた。卅一年に入つてからは、何故か少し減つたらしい。『去年迄は、無暗に讀んだよ』と言われたこともあつた。隨筆、雜書、叢書の類は言ふ迄もなく、歷史傳記より、工藝百科の書迄で、甚だしく讀んで、ひどく記憶して居られたから、時に觸れて驚ろくべき博覽の解說が口を銜いて出た。夫故、先生の許に出入するものが、初めは只だ學問嫌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ひの英雄と思つて居るが、後にはビックリして「先生は學者だ」と言つたものが多くある。

●文、詩、歌、俳偕。何れもお好きで、即興即筆、すぐと書きつけられる。どれも一種の特色を存して、他人が模倣するとの出來ぬ古蒼勁拔なる氣力が充ち滿ちて居るが、就中、歌に至ては、殆んど本職の人をして、愧死せしむる秀逸が多くあつた。主觀的で、連想に富んで、感興を刺激する、幽玄高逸なる一種の格調を存して居たが、主として西上人を慕ひ、其山家集を愛讀された樣であつた。『歌よみには困るよ。高崎に見せると、直きに「之はイケません」と言つて無暗に直すがネ、八田などはソウデなかつたよ。「之は、歌よみの方ではコウは言はないのですが、あなたの方には、別に主意があるのですから、之で善う御座い升」と言つたよ。ソレデ、大層勢ほひを得てネ、高崎に言つてやるのサ「サウ、無暗に直しなサンナ、チメーの先生は夫で善いと言つたよ」ツテネ。』

海舟餘波　●●再版發賣　定價卅錢　郵税四錢

文學

女心理學　笑の文學（其一）

無識庵

人の此世に生まるゝや先づ泣き、其死せんとするや復た泣き遂に死するや他をして又泣かしむ。而かも人生は悲喜混合なり泣く時あれば笑ふ時もあり、一生を通じて吾人の笑と泣とを統計し來らば蓋し笑ふと多くして泣くと稀なる者也。之れ然しながら喜悦快樂の多數にして悲哀の少數なるを示すに非ず、人間社會の常として笑ふは容易にして屢々表出せらるゝも、泣くは感情の高度に達せる苦痛の場合に多きを以てなり。些々たる事柄に對して笑ふを得るも、成人すれば容易に泣き得ざるに至る。

笑ひは快樂の情の表出なりとは、普通の認むる所、而かも笑の現象を究めんとせば、唯だ生理上よりのみ見るを以て足れりとせずして、之を心理上、文學上、社會上の諸方面より觀察

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せざるべからず生理解剖上よりは笑の表出する次第を尋ね、音聲及び顔面の變化を見、心理上よりは、笑は快樂の表出とするも亦屢々嘲弄、傲慢、冷評の表出たる次第を見、文學上よりは東西文學者の修辭、詩想を察し、審美上よりは滑稽の美と笑との關係を尋ね、社會上よりは笑と時、位、及び男女との關係等に及ばざるべからず。碩學ダルウヰンが一たび「人間及動物の感情の表出」なる好著を出せし以來、其生理心理の部面より究むる者漸く輩出し、笑の現象は稍科學的に究められ審美學上亦た可見の說少なからざるに至れり。

笑ひの進化――吾人の身躰、及び精神の能力、則ち手足五臟の形態より知識し感情し意志する機能の如き、古人も今人も敢て異なる所なしとするも、之れ其質の均しと云ふまでにして其量は大に異なる者あり、一個人の幼少より老年に至るまでを比較すれば身躰に大小の差あると同時に精神上の差異を生ずるとは萬人の認むる所なり。笑ひは感情の一表出なれば、笑ふの仕方、種類、程度にも各差別なくんばあらず。ダルウヰンの見によれば、笑は微笑の張大せるものにして、後者は古代の遺傳的習慣なるべしと。「骨相學及表出」の著者所爲へらく、笑も微笑も共に古代よりの者にして、唯感情の度に從ひ發するものなりと。蓋し小兒の發育に徵すれば、彼は笑に先だちて微笑するは何人も能く知る所なるべし、同著者の言によれば其子五人は生後四十日乃至六十日後に微笑し、三ケ月後(九十日)に始めて笑ひたりと、ダルウヰンの子女の一人は四十五日目に微笑し百十三日後に笑ひたりとなり。(斯に笑と云ふは聲を上げたるを云ひ、微笑とは口の兩角を引上たるまでのものを云ふ)

笑ひの音聲――笑ふに音聲を出すと出さゞるとあり、其出す時はア行とハ行とよりなる、之れ凡ての人類に通じて自然のものなり。

ア → ハ
イ → ヒ
ウ → フ
エ → ヘ
オ → ホ

(ア行よりハ行に行く音多し)

則ちアハヽ、オホヽ、エヘヽ、ウフヽとなるを常とす。若しハ行よりア行に轉化すれば概ね驚愕の音聲となるなり、例へばハアー、フウー、ヘエー、ホオーと云ふが如し。而してアハヽの笑聲は快活なる樂み、滑稽の遊び等、凡そ無遠慮に介

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

心なく自然に開口一番、飾り氣なく發する者なり、オホヽは重もに婦人の笑聲にして優しき姿あり、何となく可笑しき時恥しげなる時に多く、多少の飾り氣ある聲なり。エヘヽは嘲笑する時に發す、ウフヽは口と鼻との双方より成立つ音にして思ひ出し笑ひ、或は不圖したる事柄の可笑しく又は嘲弄する時に發す、イヒヽの笑聲は通例之を聞かず、シヽヽの方却て多し。要するにア行よりハ行に轉じ、ハ行の音聲長くして繼續するなり、淨瑠理本には、ウフアハ〳〵ウハヽヽの調子を以て言ひ表すもの少なからず。

○○○笑と男女——男よりは女、大人よりは小兒に於て笑ふこと多し蓋し女と小兒とは感激し易き者にして、腦の半球を抑制する力の乏しきが爲めなり。故に女と小兒の笑ふこと多きは快樂の多きを示すに非ず、且つ笑ひは一の僻となるものなれば、感激し易き性に其僻を加へて屢々笑ふに至るものとす。男兒と女兒とを比較すれば、幼少の時より女に多きを認むべし。妙齡の婦人は特に笑ふこと甚しきを見る、些少の事柄にも笑ひを催し、笑ふまじき者をも笑ふを常とするは抑も何故なるか、之れ天性感情に富むと同時に、思春期に達すれば一種の羞恥心生じ、愛嬌増し來り、他方には忿怒、怨恨等の激情も生じ總て此時代は感情的にして智力的に非ず、故に不圖せし事も可笑しく感ずるなり、婦人が婚姻して二十四五歳に至れば猥りに笑ひ興することなく、稍平然たる傾向あり、之を未婚者の二十四五歳に比すれば、既婚者の心の据方稍定まり居るが爲めなるべし、未婚者の二十四五歳と既婚者の二十歳前後と笑ひの度に於て稍似たるものあり、而して十六七歳より三十を歳頃に至るまでは、アハヽの笑聲少なく、オホヽの笑聲多き見る、こは深窓の下に養はれたる婦人に於て特に著るしきが如し、蓋しアハヽの聲は自然的なるの餘りに露骨にして飾り氣なく、聲微かにオホヽと響くは多少恥かし味を帶ぶるものなればなり、妙齡婦人のアハヽの音聲にて笑ひ興するは稀なることなり、但し女同士の談話にては大概アハの露骨的多く男子の混入せる時に少なきを常とす。老婆はエヘ又はハヽの笑聲を減すること少なからず。アハは稀なり。

之を男子に見るに、大概アハヽなり、多少オホヽの音聲交るは、婚姻前の思春期前後、女子と交際せる初期なるが如し。男子は概して飾り氣なく抑制せずして笑ふこと多ければ、アハ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

、の自然的に陥るは免るべからず、成年に達せざればハヽヽ、の音甚だ稀也、之れ口先のみにて表出し得るものにして、内心眞個に悦ばざる時に屢々發し得る音なれば、普通交際上、談話の際に表出多し。

○○○○笑と時所位――笑ふとは快樂の表出なり、而かも嘲弄、傲慢冷評にも表はるゝか故に、時所位の差異によりて往々人の感情を害するヿあり。尊嚴なる儀式を擧行する際、假令ば神佛の祭禮、葬式等に於て笑ふヿを不敬とす、神を拜するに誰か笑ふものぞ、凡て敬虔、悲痛、尊嚴、靜粛の場所は快樂の表出なし、又上位にある人と對話する時は假令可笑しきとも抑制して笑はざるを常とす、此の如き時は又容易に抑制し得るものなり。來客ある時なんど笑ふは特に客の擧動を笑ふが如くに感ぜらるゝヿなれば、笑つて叱咤せらるゝ子女など屢々見受くるヿを得べし、然れども親睦會、遊戲、宴會等の樂みを主とする場合には、笑はさるを以て却て不興となすなり、總躰にて笑ひ興する時所位に於て、笑ひ興せざるものは、心中必ずや何者か遠慮する所あるか、或は會衆の或者を輕蔑するヿあるか、或は病身なる爲めに何者も笑ひ興する情を繼續せしむるに足らさるかの一なるべし、則ち心身に苦痛又は憂愁の存するが爲めなり。社交上より云へば一同の笑ひ興する時に之と伴ひ笑はざるものは、健全の人とは云ふべからず、衆と共に樂み共に笑ふヿを得ざるは、何れより見るも病的と云つて可なり。此病的の人あるが爲め、時に往々全躰の興味を醒すヿあり、故に此の如き場合は力めて笑ひ興するを以て倫理的となす。

○○○○笑と時間――一日中、如何なる時に笑ふかは、身分職業によりて大に異なるも、概括して之を云へば朝の中は笑ふヿ少なし、之れ朝は心身活潑にして日々の業務を勵む時にして、一日の計畫此に成る、故に務むる時にして樂む時に非るが爲めなり、晝後より夕方に至るまで最も多し、夜に至つて漸く減ず、之れ晝後より夕方に至れば、一日の業務終了りて休養する時に當ればなり。早朝より笑ひ興するの家庭及び個人は殆んど稀なり、唯夫れ小兒、下女の如きは餘り時を擇ばさる狀あるも、而かも朝と晝後とは大差別の存するを見る。夜も初更は笑ふヿ多し。蓋し笑は觸興的に表出する者なれば可笑しきヿあれば朝夕の差別を問はざるなり。斯には總躰に通じて

之を言ふのみ。又偶興的と云ふも朝は可笑しき境遇に接すると何人も少なきものなり。

○○○○笑ひと七曜――七曜は重もに新文明の空氣を吸ひ、若しくは官役、教師、職人等の時間を定めて勞役する人にのみ應用し得べく、今日地方の農民の如く天氣と雨降とによりて業務を異にし、所謂安息の日曜日を待ち望まさる人々には應用し難し。通例は水土日の三曜笑ふもの多し、兵卒の如き水と日とを休暇し遊戯散歩を試むる日なり、官吏、技師の如きは土曜の夜最も樂しく笑ひ興ず、日曜の朝に至るも稍同じ、又其午後より夜も殆んど同程度にあり、唯月曜の業務なるもの多少心に浮むが爲めに少しく抑制せらるゝの氣味あるが如し。一週間の苦樂は、日曜より一日代りに成ると云って可ならんか。學生の如きも日曜に笑ひ興すると多大なるが爲め、月曜はモンデーシックと稱して課業の如き平常に比して拙劣なり。樂みの後ちは苦みありとせば、日曜に樂しみて月火に苦しみ、水に樂みて木金に苦しく又土に多少樂みを覺ゆるは當然なり日曜より、寧ろ土曜の此後を以て最も樂しとす、之れ日曜なる休日に、倘ほ時日の餘裕あるが爲めなり。自殺の如きも樂みの盡きたる月火又は木金に多しと云ふ。

○○○○笑ひと四季――春風駘蕩の候は花笑ひ鳥歌ふと稱せらる、天然の美景四邊を繞る頃ほひ、病者も起ち惰者も室外する好時節、誰か愛しとするものぞ。又秋の日和、小春景色の暖かき時候に於ては七草見がてら散策に適す。此時や人の樂む時なり從つて笑ふと多き節なり。而かも三月の雪解より洪水起り十月、二百十日の前後の如き農民は一日も安き心を有せず、故に商工の都會的習俗を以て、田舍の農民を推思するは誤れり、農民の樂み興するは農の期節に關係する所多し、彼の祭禮の農業と伴ふを見ば此理を知るに難からず、猶太のペンテコステ、構廬の節、七年毎の安息日は云ふも更なり、古代獨逸の祭日、支那の社稷を祭り、希臘の古俗、及び本邦に於ける村社の祭禮及大祭日の如き皆農家の休養する期節に行はる然れば祭禮は素と農民の勞役辛苦の後ち、一は樂み一は稼穡の時を誤らざらしむるの趣旨の含まるゝを見るべく、而して此時や農家の笑ひ興する時といふべきなり。其秋の收獲に忙殺せられ、又は田植に忙はしき時は笑ふと少なしと見る敢て不可なけん。商工家に至りては多く夜分にして四季を問はず、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

而かも其職業によりて春季に繁昌する性質と秋季に賣買多きと種々の別あれば、其最も能く繁昌し賣買して快樂の伴ふ時に笑ひ興すると多しと云つて可なり。天氣によりて區別すれば晴天に多くして曇りに少なく、雨天は其平均を得たる所に位すと云つべし。之れ晴天なれば何人も心身爽快なるにより、雨天なれば一家團欒し又は來客も雨天には割合に長く談話する等より來る、又曇天は照りもせず曇りもはてぬ朧夜の如く、心身最も不快にし、頭痛を催す等のことあればなり。犯罪心理學によれば、罪人となる惡習ある人は曇天に於て特に不快を感ずるものなりと云ふ、之れ精神健全ならざるの致す所なるも、普通健全の人と雖も曇天を樂まざるものなり。故に晴天に最も多くして雨天之に次ぎ曇天は甚だ少なしとは云ふなり。

少年のよみもの

（會話筆記）

●少年の讀ものに付いて、是迄の缺點と思はるゝと、之より補なつて欲しいと思ふとは、第一に、理化學に關したるお話し。第二に、海、船、水の樂しみ等に關したるお話し。第三

には、英雄豪傑として知られて居る古今の人物の失策ばなしである。英雄豪傑でも、子供の時には、コンナ可笑しな事があつたナドと云ふ話しは、面白いのみならず、心の發育に大益である。

●小供の中に、圖太い、横着な樣な、夫れで至つて無邪氣な、デロリとした質の子がある。此の質の子は、善く敎えれば隨分非凡の人物になるが、誤まると、亂暴放逸に流れて、所謂る仕方の無いものとなる。其の誤まるとは如何なることかと言ふに、死んだ規則的の面白くもないことで責め付けて、之に反抗するを不埒至極の大罪惡の樣に見做して罰に處する、かの器械的敎育の餘弊に由るのである。小學校などで、一級に二三人は是非此の質のものがあるが、夫は大抵、敎師から惡まれるのである。其のズウ〳〵しい、横着らしい、圖太い樣な顏色は、迚も今時の敎育者の愛顧を引かぬのであるが、惜しむべし、此類の少年こそ敎育次第で、他日非凡のものとなる雛であるものを、敎師の手で之を傷なつて仕舞ふと云ふは何たる事であらふ。ソコデ、此の一派の少年が愛讀するものは、冒險談で、圖太い大膽な話しが好きなのであるが、今で

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は少しも其樣な讀物がない樣である。

●女學生の方々は、其の妹や弟に話して聞かせると云ふ心持で、讀物を作つて御覧なさるが好い。考へて居れば六かしいが、試みて見れば、左程のものでありますまい。夫で、自分に出來るか出來ぬかの試驗はコレデス……即わち、子供が何を好くか、此の子供はドンナ事、アノ子供はアンナ事を言へば、キット喜こぶに相違ない。コウ言へば怒るに相違ない。コウ言へばビックリするに相違ないと云ふとが分つて、子供の夫々の心に當てるコツを得て居る人ならば、必らず出來ます。私なども、コレデモ出來る積りです。弟に手紙をやりまして、今度はキット怒るに相違ないと云ふ見込で書いてやると、果して早速に返事が來て、「吾兄小弟の志を知らず、慨然として慷歎せり」などゝやつてくる。又、おばあさんの所に手紙をやつて、コウ言へば喜こぶに相違ないと思つて書くと、果して直ちに喜こびの手紙が來る。コノ事の出來る人ならば、キット讀物が作れます。小學校の先生の中でも、不思議に此のコツを得て居る人があるが、生徒等が其前に出ると俄かに元氣づいて、お友だちの樣に思つて、躍り立つて悦こぶ。此の手心を得て居る人ならば、キット小供の讀物が作れます。斷然、試ろみて御覧なさい。

●小供が何を好くかを調べるなど、言つて、色々の問題を出して、其の答を統計する人などがあるが、子供は大人と違つて、其の答へる時に尤とも近い場合の心持を答へるのであるから、何を一番好くかと云ふ答にはならない。其比、何事で一番喜こんで居るかと云ふとが分る丈である。この工合を知らないで、小兒研究などゝ言つて調べると、調べるほど彌よ間違に入るものです。

●漣サンは、小供の讀物の作者に生れた樣な人で、其の天稟は、誰も眞似が出來ん。殆んど獨舞臺と云つても宜しいほど、外の人より飛ぬけて上手です。もし強いて其の缺點を言ふと、大膽なるお話しがない。新八犬傳などで、隨分、冒險らしいとを書かれても、何となく、可笑しくて、笑いたい樣に斗りなる。子供が之で元氣を出すともなく、前に言われた樣な質の子供の好キナ所に適する勇猛なる所がない。之斗りは實に一つの遺憾である。夫に加へて、今一つを擧れば、理化學的のお話しがないとである。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◉漣サンを小學年代の小供の作者とすれば、中學年代の子供に適する作者は卽わち弦齋氏であらふ。其のサッパリして、筋が通つて、一寸と面白ろくて、目サキが變つて、新智識があつて、殊に理化博物の趣味にも富んで居る所などは、丁度、中學書生に至極適當して居るので、弦齋氏の愛讀者は、必らず此の方面に多くあるに相違ない。女にして言へば、乃わち高等女學校程度の女學生に多いのであらふ。

◉動植物の趣味を子供に味わせるに付いては、植物にすれば、小サナ花とか、雜草とか云ふものに趣味を持つやうに。動物にしても、蚯蚓とか、蛙とか云ふ、醜くい、つまらない樣なものに趣味を持つよふにさせたい。元來、子供は自づから、コンナものを好くので、大人のやうに、牡丹とか、黃鶯とか云ふやうな、立派なものを好くのではないから、其の趣味の養ない方も、又之にお話しするのにも、何もに此邊の心得があつて欲しいと思つて居升。

離愁不レ可レ寫、　蟬噪夕陽初。

妻の不平（懺悔）

露子

『此ごろは如何でございます』『今日は如何でございますか』といひて、夫の病を問はるゝ度に、わらはが心は斷ち切るばかりに感ぜらるゝなり、

『よく感心に看護せらるゝ』と、陰に陽に賞めらるゝ毎に、わらはが胸は張り裂くやうに思はるゝなり、

アヽ何として、何時、此苦を脫し得べきか、『濟まぬ』『申譯なし』との情は、朝より夜まで、夜は夢の中にまで、わらはが心に往來するなり、

アヽ何とせん、懺悔には罪も消ゆるといふなれば、いざや此海よりも深きわちはが罪を告白せん、

わらはゝ今年二十二歲、十七歲の春、互に思ひ思はれし人のもとに嫁ぎぬ、舅姑はなく、たゞ二人のみなれば、互に少しの氣がねだになかりき、

夫はわらはより長ずること十一歲、極めて氣慨あり、負けず嫌なると共に、有り過るほど同情に富み給ふ人なり、外に在りては國事の爲めに盡し、甚だ御心配多き由にて、家に歸り

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

てわらははを見るを非常の樂とせりとのたまひにき、わらははは此有り難き情に感涙を絞りけるが、半年ばかり過ぎし頃、如何なる惡魔の魅入りしか、わらははは之をうるさきやうに感じ、時としては己が我儘を張りなどするに至りぬ、强き者には屈せざれど、弱き者には忍び給ふ我が夫は、餘りにわらはを咎め給ふことなきを、好き事としていよ〳〵我意を長じ、嘗て里方を出る時、母上がくれ〳〵も戒めて、

婚禮の初めの時の心を失ふこと勿れ、夫の君の愛に狃れて我儘に陷ること勿れ、もし我儘を出す時は、どのやうに夫の君に盡さるゝも足らぬやうに感じ、少しく不機嫌にさるれば、自らもスチるやうになり、かくて一家不和の基をなし、或は離婚の不幸を招くに至るなり、くれ〳〵も我意を出すこと勿れ、無理と思ふても夫の心に從へ、かくするときは、夫の君は自ら反省するものなり云々、

と仰せられし言をも打忘れ、己が心からとはいひながら、夫婦共に極めて不愉快に四年あまりを經過したり、嚴正にして謹直なりける夫は、二年目あたりより、外に出でゝ酒を飮むやうになり給ひぬ、時には外に泊り給ふことなどもありければ、わらははは口惜しさ言はん方なく、或る日いつも來る夫の朋友が、餘りに久しく話し居らるゝ故、夫に疑を持つ身の、何事をか斯く永く話し居らるゝにや……と思ひて、罪とは知りつゝ密かに立ぎゝしける時、夫の聲として、

外に在りては愁あり、家に在りては不愉快なり、酒でも飮むに非ずして、何を以てか我が胸底の鬱を散ぜん、

など申さるゝを聽きぬ、これまで己が目にある梁木を知らで、夫の目の上の物屑をのみ數へつゝありたる、利己、私欲、不情、不慈なるわらはが魂は、此時俄然として自ら心づき、

アゝわらははは濟まぬ事をなせり、夫の心をして斯くまでに不快を覺えしめしは、皆わらはが罪なり、

とぞ思ひける、

わらはゝかく自ら悔いたり、されど平生の我慢は、急に夫に謝るに忍びず、思はず三日を過しけるうち、……アゝ意外にも、實に意外にも、其四日目に、夫は烈しき僂麻質斯に罹り給ひぬ、頻りに腿の痛に苦み給ひけるが、其翌日には人事不省となり給ひぬ、醫士に聽けば、「僂麻質斯が腦に入りたるにて、治するや否やを知らず」といはれぬ、

病み給ふ夫は、枕邊に侍るわらはをも知り給はず、時にはいたく苦み給ひ、時には昏々として睡り給ふ、生きて生きざるが如き御身の様、見るにつけては、互に親しかりし當時を想ひ、やさしく盡させ給ひし御心を考へ、わらはが我儘を悔い、此悔いたる心を御心に達せしむること叶はぬを悲み、我れのみ知る此苦に責められ、人知れず紅涙を絞りしこと幾度なるやを知らず、アヽ如何に粉骨砕身して看護を盡しまゐらするも、わらはが罪は消えざるなり、里方の兩親女學校の友達、其他多くの見舞の方々を見る毎に、わらはは此天地に身を措く所なきやうに感ずるなり、時に友達の責め辭など聽く折は、胸に錐を刺さるゝよりもつらく感ずるなり、

請ふ世の姉妹達よ、わらはの如き罪に陷り給ふこと勿れ、わらはの如き懺悔をくりかへし給ふこと勿れ。

高等女學校長會議

去五月八日より同十二日迄、府下にて催ふされたる全國高等女學校長會議の模様は、大畧前々號に記載したれど、其問題可否の事に付きて吾等は如何に思考せしぞと問はるゝ諸君あり。當時差して氣にも留めざりしことなれど、今試みに二三言を附評す。

(一)文部省に於て毎年一回高等女學校長を招集し會議を開かれんことを文部大臣に建議するの件(可决)……◎大臣、此の建議を可として能く實行するや否やを知らねど、招集せらるゝと、自分達が篤志集會するとの相違何處にあるを知らず。但だし、中學校長が招集せられし故、女子の爲の中學校とも云ふべき高等女學校の校長等が同様に招集せらるゝを必要とすと云ふ乎。左らば、一應は道理あること也。

(二)高等女學校生徒に裁縫を授くるには、着座せしむべきか、將た椅子に倚らしむべきか(着座可决)……◎設備不十分の所にては、着座の方宜しけれど、敎場廣く、器具備わることを得ば、倚座の宜しきに若かず。就中、多數の生徒に對し、級々組織を立てゝ、順序正しく敎授せんとする時には、倚座の方固より便利なり。

(三)高等女學校生徒に校外運動を爲さしむるの可否(可决)。……◎かゝることは、問ふ丈けが馬鹿らしきこと也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(四)明年五月初旬を期し高等女學校長協議會を開くこと(可決)……◎之は望ましきことなり、但し何故、五月にすることにや。新學年に入らざる前に爲しては如何。

(五)高等女學校へ、國庫補助を附與せられんことを文部大臣に建議するの件(否決)　虫の能き話なれど、出來ざるを如何んせん。なまじひに委賴して弱氣を出さんより、寧ろ否決せし方宜し。

(六)高等女學校教授細目の標準を纂修されんことを文部大臣に建議するの件(否決)……◎大臣を信ずること亦篤い哉、女子敎育の如き創業の事は、せめては當局の人のみ稍や知るのみ、文部の俗吏、學吏の何事を知る者ならんや。然るに其の盲斷を公ひて自から許し、故さら究屈の中に入らんとするは何事ぞ。

(七)高等女學校職員俸給額の標準を一般に定められんことを文部大臣に建議するの件(否決)……◎誰の發題かは知らず、彌よ出で丶彌よ愚なるを見る。

(八)小學校正敎員より任用せる高等女學校教員は、其特長學科に限り特に試驗を用ひずして一科若くは數科の教員免許狀を與へられんことを文部大臣に建議するの件(否決)……◎之は高等女學校の程度、格式を低ふするの論ならずや。小學校と高等女學校と同日に比すべからず。

(九)高等女學校長より二名を高等敎育會議員に選出せられんことを文部大臣に建議するの件(否決)……◎中學校と相對するものとなさんに、此位の所望は可なり。但し其實、別に望む所のものある故と言はゞ、寧ろ其不見識を笑はん。

(十)高等女學校生徒に小說を讀むを禁ずるの件(否決)……◎其可否よりも、能不能を問へ。實際よく禁ずることを得る乎。禁ずるとも防止することを得る乎。況んや是れ總ての小說惡しきにはあらず。小說にも善きものあり、惡しきものあり。

(十一)高等女學校生徒に其試驗成績を公示するの可否(否決)
◎公示せざるのみならず、無試驗なるを更に佳とす。女學生は、男生の如く怠けるものにあらず。試驗などにて故さら刺激するは寧ろ益なし。

(十二)高等女學校に於ける漢文を必須科とし、之を二學年より課するの議(否決)……◎寧ろ三學年よりとせよ。必須科とするは、當然ならん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(十三) 高等女學校生徒の服裝結髮を一定するの件(否決)……全國一定などの出來べきや。但し各校にて夫々一定し置くも亦可ならん也。

(十四) 女子に適當なる通常禮服を制定せられんことを、其筋に建議するの件(否決)……◎斯る事の制定までを其筋に乞わんとする乎。官權萬能の崇拜も亦た甚しい哉。

此他互ひに實況談を爲して別に可否を決せざりし問題如左

一 高等女學校生徒裁縫敎授に關する件
二 生徒寄宿舍の件
三 女子躰育奬勵の方法如何
四 寄宿生徒の制限如何
五 修身敎授の方針及敎授細目
六 寄宿舍を設けざる塲合、其寄留生徒の取締如何
七 敎科用書採定の方法

此外、當に出づべくして而も出ざりしは何故ぞと怪しむべき問題を試みに多少列擧せんか、

一 料理割烹家政の實地修業法
二 美育の程度及方法
三 女子生理及看護術の敎授法
四 寄宿舍に於ける別舍組織の案
五 高等女學校卒業生の方向及修業法
六 高等女學校未開設の地方の誘導法

此等は、今の高等女學校に從事する人々の念頭に浮びて、其決定を乞わんとするとあるべき議題にあらずや。而して、諸君竟も其の範圍に入らず。

男女交も敎ゆるは自然なり

「女學生を敎ゆるものは女の敎員こそ然るべし」と云ふ一種の論ありて、元と女權を重んずる人の口より出づ。只管ら女の爲に氣焰を吐きくれたる樣に思ひて、感謝贊同する族もありといへど、是れ一種の僻論、識見の狹隘なる言ひ草なり。女の腦は男によりて、男の腦は女によりて、異性相ひ刺激してこそ、不思議なる開發成育もあるものなれば「女の敎員には女」と云わん如き、俗論一天張にて容易すく決了すべきとにあらず。吾人は寧ろ言わん、男の手によりて女の敎えらるゝ

とは決して恥にあらず、何んぞ亦進んで斯く言わざる」即わち「女の手によりて男も亦教えらるべき也」と。夫れ、男、女を教え、女、男を教え、大學に至る迄で、女教員のあらんと、深く望むべき所ならずや。

平和會に不賛成の理由ありや

萬國婦人平和會に連合を申込まんとする吾國姉妹近日の擧動に對し、彼此と評するものあり。中には、明白に之に反對して、軍備擴張と平和とは矛盾の事なりと誤解する輩もあるよし。夫れ、平和會に連合せんとする此度の申込は、彼の列國平和會議の和蘭海牙府に開かるゝ好機に乘じて、其の結果の良好ならんことを祈ると云ふ婦人の集會に同意を表するの旨なり。抑そも、列國平和會議の好結果を生ずるに至らんことをとは、萬國の等しく希ふ所ろ、又　我皇陛下も此の大御心にて參會者を送らせ玉へりし所ろなり。然るに、之が良結果を希望せんと云ふ世界有志の婦人の連合に對して、不賛成を言ふことを得べき理由は何處にある乎。軍備擴張の目的は、平和にあり。誰か、平和の目的に對して不賛成を言ひ得るぞ。

評論

女學雜誌は大乘に過ぎたり

仙臺　山月子（寄）

試に明治二十二三年、若くは二十四五年頃の女學雜誌をとりて、今日の物と對比せば、其進歩變化の著大なるに驚愕せざるもの少なからん、彼女は内に英靈々たる、活潑々たる生命を有せり、而して能く健かに、能く圓かに生長せり、彼女の進歩は、通常吾人の進歩の如く、小乘より進みて大乘に入りたり、

然れども吾人今日の時勢を觀じ、而して女學雜誌を見るときは、則ち「大乘に過ぎたり」との評を下さゞるを得ざるなり、善悪の觀念の朦朧たる、道義の心の萎微したる、それ今日の如きあらんや、記者は今日に於て、猶明治二十二三年頃の若々しき道義の論を繰返すの親切なき乎、高遠の考、圓熟の論、新奇の想、巧妙の文、能く小數の人を感ぜしむるのみ、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

多數の婦人讀者は、今に於て記者の熱誠なる、親切なる道義の說敎を聽かんことを欲するなり、此滔々たる暗潮に、一道の淸流を注がんことを欲するなり、

華嚴を說きて而る後阿含を說きしは、釋尊の慈悲にあらずや、能く大に入り、小に入り、麁に入り、細に入り、濃淡淺深、入て得ざることなく、而して其時に應じ、其人に應じて說法するは、是れ聖徒の愛にあらずや、

記者或は曰はん、道義の論をなす者、他にあり、慷慨の說を吐く者、他にあり、我は我の思を其まゝに說かんのみ、日本全躰の上より大觀し來れば、亦可ならずやと、嗚呼是も亦記者の大乘論なり、吾人は斯の如き事を聽かんことを欲せず、寧ろ其小乘を說かれんことを欲するものなり、

凡ての基督敎徒に不滿足なるは、其小乘の見地に立ちて、これより以上、これより以外、更に道なしとなし、得々として他を排し、揚々として自ら高うするに在り、吾人が望む所は、善く大小乘、根本乘を知りて、而る後慈悲の爲めに小乘を說く人にあり、而して吾人は今女學雜誌を措て他に其人なきを信ず、記者猶吾人が言を以て、一微笑に附して顧みざるや、

逆境の福音

東根學人

世の所謂逆境とはそも何者ぞ、世態や萬狀、水を飮んで樂しむ者あれば、錦を着て苦しむ者あり。身羸弱、志薄弱以て世に處し得ざるもの是れ逆境か、あらず。心愚直、志頑固以て人の上に立ち得ざるもの是れ逆境か、あらず。因循姑息、懶怠以て人の下に立つもの是れ逆境か、あらず。遙かに世波の荒きを望み、之を破倒するの勇を敢せず、只管恐怖し以て苦境に沈淪するもの是れ逆境か、あらず。

政權の分爭に於て、勝てる者はそが近親者を導引し、同鄕の好を以て不能者と雖も、之を顯位に上ぼし、多々益々、自家をして豪富、友をして立身せしむるに反して、敗者は同一の能力あり識見あり技量ありと雖も、空しく地位を得るに術なく、常に悲況に蟠屈せざるを得ざるものなり、是れ則ち明治維新後に於ける薩長土肥と其他地方との如きもの、而して後者は正しく逆境に立つものと云ふべし。是等は政權上より來るものにして、其の延いて及ぼす所は、各社會に影響するものあり。換言すれば人物配布の地方的に不平均を來せるもの也。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

之を個人の場合に見る。先達の士、之が前を爲さず、空しく才能を懐いて一世亦爲すに由なきものあらん、均しく學び均しく進みたるもの、一目行程を異にして一は赫々休光を垂れ一は戚々窮死に沈むあらん、後者の如き夫れ逆境か。然れども萬人均しく順境に立つは世の不祥なり、否な人生決して之れあるを期すべからず、逆境に立つものの爲めに吾人一掬の涙なき能はずと雖も、眞個の逆境に立つものあるは、寧ろ國民の幸ひならずや。

古より艱難人を玉にすと云ひ、可愛の子に旅をさすと云ひ、非難の賞讃より人を奮勵せしめ、古今東西の偉人傑士にして苟も後世に休光を垂るゝもの、未だ曾て一度だも逆境を經ずして現はれたるものなし、否な逆境を經て之に勝ちたるか故にこそ偉人たり傑士たるなれ、大逆境に勝つもの大人なり。小逆境に勝つものは小人たり。或る場合に於ては好んで逆境に立ち、之に立つを以て寧ろ幸福とし、天に對する所なくんばあらず。

逆境福音や大なるかな、古來偉人傑士の史傳一樣に其の教訓を垂る。我身を苦めて始めて人の苦痛に眞個の同情を寄するに至る、輕薄の人未だ之を解せず、貧し者を賑はし病める者を慰む、素と人性自然に出づと雖も、自家曾て其境を經ずんば、眞情より感慨するの念なく、世の習俗に從ふて儀式的に試むるのみに過ぎず、人を苦むる時や未だ之を苦しむるとを知らず、自ら經驗して後ち之を知るは普通の人情なり、子を持たさる者も親の恩を感じ得べし、而かも子を持つて後ち知る親の恩や言語に盡し難し、人の智識感情は凡て經驗より來れるにあらず、先天の所得亦大なりとするも、大多數に於ては吾身に經驗したる所を以て人に及ぼすは通常なるべし。

逆境に出づるものは、世を怨み人を咎め徒らに慷慨悲歌するを以て本色とせず、之れ弊のみ、眞個の逆境に立つものは、其言ふ所は正義なり。盖し順境に慣れたるものは瀑布の下に永住する者か其落下の音を聞かざる如く、不正不義を行ふて恬として恥ぢず、逆境者は鋭眼之を視察し以て其不正不義を責むるなり、逆境者の言ふ所は改善の聲なり、盖し順境者等友を以て集まり、臭裡にありて其臭を知るに由なく、自家を利するの妄念滿ちて他の利害に掛念せず、此際に於て其臭を暴き妄念を打破して以て改善を計るは、逆境者を措いて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

將た何處にか求め得べき。苟も天下、正義と改善との聲の發する所に聞け。一定の規則中に束縛せられ、一定の制度に跼蹐し唯其失墜を恐れ、上官に諂び頭領に閉口する輩の團結裡にあらず、彼等に過ぎたる能力あり、彼等より優れる識見ありと雖も唯世の制度の變更か流行の潮流に會はず、又地方的に先達の士少なく、或は閨閥、門閥、學閥、財閥、藩閥、兵閥等の門外にあるの故を以て、逆境に沈倫する人士にあり。然れば惡閥を倒し、惡弊を除却するの眼孔を具へ、之を打破するの能力あるものは閥外の逆境に常住するは見易きとならずや、世には他人の力によりて光り、他人の實を藉りて己が名を顯はし、而して之か爲めに從來の交誼を空くし、十年の友と雖も路人を見るか如き俄か大盡、俄か學者少なからず。而かも吾人の眼を以て之を見れば彼等はうたかたの水に浮へる泡沫の如く、且つ消え且つ結ぶの類、國家社會の進步、文明の開進上に何等の影響をも與へざるものなり、唯聊か美衣美食を爲し得る一種の動物のみ。位地を得て却て苦むの輩は、道を守りて逆境に立つ者の福音の如き、何んぞ味ふことを得べき。逆境に立つもの、怨恨は私怨に非ずして公憤なり、故に其心事自ら快活、彼は逆境を變じて順境となさんとに力む、故に其平常勇氣充滿す、今の官吏の如く、就中、學校卒業後直ちに參事官となり高等官に歷進し、文字外、世態の何たるを知らざる者の如き屑々たる小人物は寧ろ憫然に堪へざるなり。逆境に立つものは幸福なるかな。

水生

深　忠　子

(一)
嵐の風が吹まける
深山の冬の大岩を
根木にだきて千早ふる
神代の緑黑みどり
自の衣をよそほひて
枯るゝを知らぬ姿見よ
木にだに松のあるものを
人の子にしていかでやは

(二)
只是れ塵の上くれが
積りつもりて今姿に
天つ空をば冠にて
照日の光身に浴みつ
匂ひは深き紫の
衣の褶は大やまさ
山にも富士はあるものを
人の子にしていかでやは

(三)
數千年の命をば
山のたもてり木のもてり
拜まくほしき莊嚴を
木さへ山さへかゞやかす
誰かゝぞふる五十年
誰かいひたる塵の身さ
アゝいふ勿れ人の子の
榮は神にあるものを

(四)
時と位にしばられぬ
生くると死ぬと打越せる
生命の光人の子よ
遲し早しといふ勿れ
强し弱しといふ勿れ
高し卑しといふ勿れ
はらへば散らふ白露に
心はおかで進めかし。

雑録

ムーアがラストローズの歌を讀む

花影子

ムーアはもと深刻なる感情を有する詩人にはあらず、アナクレオナイトとさへ呼ばれし者なれば、その歌ふところ決してミルトン、ウォルズウォルスの如き高尚深遠の思想にもあらず、バイロン、シエレーの如き熱情にもあらず、またフードの如き悲惨にもあらず、彼が樂むところ悲むところ等しく普通にして、その優しさは殆ど女性に近き處あり。英詩中讀むで最め我國の歌に類する者と感ぜしは彼の作なり。和歌に著しき物の哀てふ感情は、彼の詩中にも多く見る處なり。此情や決して單に悲哀の意にもあらず、ましてたゞ柔弱の調にもあらず、一種の優しき美感といふべし。古人が物の哀は是よりぞ知ると戀をうたひしも、これキユツピドの指に心の琴を彈ぜられて、天地悉く是より其優美なる音調に和するの調ならむのみ。

彼が詩には壮大なく、冷刻なく、また狂熱なし。然も三春花ゑみ蝶ゆめむ花苑の如きところ、雲雀うたひ風香る野中に眠るに似たる小川のさま、さては細雨蕭々として蛙聲またうちしめりたる夕暮の趣をさへ兼ねたり。彼は確に斯の如にして、英詩壇上に一の異彩を放てり。

蜂の聲眠げにひゞく窓の下に、彼が傑作の一なる此篇を吟誦すれば、恍として我は人世の花園に徨彷し、彼と偕に名殘の薔薇に限なき涙を灑ぐ。

'Tis the last rose of summer
　Left blooming alone;
All her lovely companions
　Are faded and gone;
No flower of her kindred,
　No rosebud is nigh,
To reflect back her blushes,
　To give sigh for sigh.

青葉の色漸く黑みゆきて、温和なりし日影も酷しく、しめやかなりし雨さへ荒くなりゆけば、麗しき花は堪へかねてか漸く生き殘れる者稀になりて、獨り殘りし薔薇の花あはれ、互に色香を競ひ、互に思を語る友さへ凋み果て、苑のなかに寂しくひとり立る心の中いかに。

終の二行の互にその顔に匂へる色を交すといひて、遂に押へ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

難き思を幽なる溜息に洩すといふが如き何等の妙句ぞ。blush なる語、花の紅を互に照り返すさまより、情人の思に燃ゆる顔に互の情の通ずる迄おもひ及ばれて、感殊に深し。而て to give sigh 云々の一句に至ては、到底拙き語の譯すべき處にあらず、樂しき憂に胸ふさがれる戀人の樣見るが如く、たゞ讀者の自ら靜思してその眞味を掬し給はむことを請ふ。

I'll not leave thee, thou lone one,
To pine on the stem ;
Since the lovely are sleeping,
Go sleep thou with them.
Thus kindly I scatter
Thy leaves o'er the bed,
Where thy mates of the garden
Lie scentless and dead.

情濃かなる彼、花の心を思ひやりては、獨り憂に凋むを見るに忍びず、其愛する者の胸に寄りて眠らせむと一片〳〵にちらしぬ。

此時の彼が感情いかにありけむ、斯くまで纎美なる姿を散すはなさけなき業と思へど、殘りて唯つきぬ物思に惱む樣見ては、却て其情人の休める床に、同じ夢路を辿らしむるの優れるを思ひ、今はとて花を摘みし時の彼が心、あゝ詩人ならずして誰かよく是を察せむ。花よ汝も導き此詩人の愛に滿足して、來るべき春を樂みて待つならむか。

bed の一字たゞ是を園の地とのみ冷かに見れば甚だ趣味少きも、これを我國の詩人が雲雀の床、菫の床など歌へる趣を以て解すれば限なき味を感ず、またScentlessの一語注意すべき者なり。

So soon may I follow,
When friendships decay,
And from Love's shining circle
The gems drop away !
When true hearts lie withered
And fond ones are flown,
Oh ! who would inhabit,
This bleak world alone ?

清き薫りは忽ちに消え、愛らしき姿は長くたもたず。寂しき人の世に花と咲ける友の誠、露とおける戀人のなさけ、死の風に打れて永遠に散る。我愛せし者、我を愛せし者、等しく其來りし所に歸りし後、あゝ我身のみ人世の荒野にいかで殘らむ。何人か此寂莫の天地に獨り住む者あらむやと、彼の歌ひし處は、唯這般の境を經し者ならざれば知るところにあらず。愛の輝ける輪より寶珠の落去といふ句、小女の眼の如き花より、白露の一粟つゝ滴るを思はせて、樂かりし團居より、愛する者やう〳〵に失せさるの恨綿々たり。withered といひ bleak

とひ、冬枯の景を敘するの語を用ゐて、悉く花落ち露きえて寂寞たる愁色を忍ばしむる、詩人の注意周到なりといふべし。

元來英語は子音多きため、温和優艶の調に不充分なるを免れず。しかるに此詩は全篇を通じて母音多く、殊に英詩の弊なる、歯音を少くせしは注意すべき所なり。これ故意に爲して得べきにあらず、詩人の胸中に響く、やさしき感想おのづから發して、此調をなせしならむ。而て此詩の如きは調と想と最も能く一致せる者にして、誦者にいふべからざる美感を起さしむ。

モーリス以前の英詩中、流麗優美の調、ムーアの如き者稀にして、彼の作中此詩の如きは其特色を現はせる者の一なり。偶然の事なるべきも、全篇悉く七と五とのシラブルにて、毎行を成せしところ、我今様調に似たるも不思議といふべし。

江動月移石、　溪虚雲傍花、
鳥棲知故道、　帆過宿誰家。

桃波一歩地、　了了語聲聞、
闇與山僧別、　低頭禮白雲。

いかづち物語（三）

久保ゐの吉

雷といへば、音をさし、光の方は電の字をあてゝいなづまとよむ。英にてThunder.とLighting.とを分ち獨にてDonnerとBlib.とを分つ。しかし、電は雷に附隨するものにして、雷の雷たるところは音響になり。おそろしきところも主として音にありしなり。いつの時代なりけむ。雷の陣といふあり。之は禁中にて雷高く鳴る事三度なる時は近衛の將官弓箭を帶し、殿側に伺侯し、守護するところ也とぞ。聖人として仰かるゝ孔子様すら、論語郷黨篇中に「迅雷風烈必變」とあるをもて見れば、雷を恐れしものと見ゆ。中華を貴ぶ人々は、天變あれば國政の整はざる徴なれば自らおそれつゝしむとやらに説かむ。されども、そは曲解なりと信ずる也。矢張孔子も地震、神鳴、火事、おやぢの金言を許し給ふならむ。

さて音を主とする事は、世界各國の語原と見ても明かなり。

Thunder. (any loud Voice) 高き聲といふ註あり。獨逸語の Donder (雷) donern (雷鳴る)。和蘭語 Donder 雷。拉

乙語 Tonare（なる）Tonitrn（雷）。希臘語 Twvos。佛語 Tonnerre。されば西班牙語の Turene。いつれも D. T. の音にして、響を顯はせるが如し。梵語の San (So. Saund) といふ語も同し源より出しかと思へと明かならず。これは高楠順次郎氏へとひあはせ貰ひたれど、返答まにあはず。露語にては Ppōms Tpour(grome) といふよし。その語原をある人にたづねやりしがその人しらずと答へ來れり。朝鮮語にては、雷を번개といふよしなれど之も語源不明なり。

いつれにしても、それ等の雷といふ字自身を直に一轉して抽象的に使用するを見て音と雷といかに關係するかをしられなむ。英にて Thunder—any loud voice or an alarming or startling Threatod denonncition と解きThunderboltといふ事を電光とも豪傑とも譯す。獨逸語にては Daunerwort 雷語といふ字さへあり。donners を mis Eilern Nachdruct reden とも意味せしむ。即ち熱心と勢力とを以て話す事をいふ。

支那に雷門といふあり。その註に曰く、會稽城門有二太鼓一聲聞二百里一と。東京淺草にかみ鳴り門と云ふありこは駒下駄、雪駄類のガラ〳〵ゴロ〳〵、えり豆類の音がパリ〳〵パチ〳〵といふところを形容しての名なるべし。あながち、曲解にはあらざらむ。

又禮記の曲禮に、雷同とありて、その註に雷之發レ聲物無レ不二同時應一者といふ。後世此字の濫用せられしこそくやしけれ。同すべき正理あるものに何の不可かあらむ。しかるに後の世は理と非とを問はす屈服するとのみしかいひたり。語源とかはり來れることそ苦々しけれ。世に雷名をとゞろかすといふ事あり。言海は雷名をときて「世に鳴りわたる名」とせり。

まさにしかるべし。軒の聲雷の如し、又は百雷の一時に落つるが如し等又は源氏明石の「こゑいかづちにもおとらず」等いふは皆音聲の高きを形容するに雷を用ゐる事也。

古き歌どもを見れば、雷は音の枕詞又は緣語に用ゐたり。枕詞にせる例は萬葉の

鳴神の音のみ聞きし卷向の檜原の山をけふ見鶴鴨。

の如し緣語に用ゐしは古事記の

美知之斯理、古波陀袁登賣袁、迦微能碁登岐許延斯迦杼母、阿比麻久巨麻久。

の如し。その外萬葉集中雷として出てたる歌は唯一首にして

天雲近光而、轟神之、見者恐、不見者悲毛、といふ也、作者しれず。から歌にてもとおもひ白氏文集、李白、杜子美等の詩集をあさりしかどさすがに雷のは見えざりき。法螺吹きに巧みなる支那人も、雷の音を形容するにたるべき架空の句は出でざるか。唯雷を音の比喩に用ゐしを見るのみ。英獨佛等の詩にては調ぶる暇無かりき。

獸に雷獸といふあり、鳥に雷鳥といふあり。魚に雷魚。木に雷木よ。雷獸は雷神の使なりと一時はおもはれしが、中々雷にはおそれてかけ出す卑怯者なる事判明せり。大木のさけたるを彼が爪跡とおもひしは大なる誤なりき。されど、今にしてその名を奪はむ由も無し、僥倖の獸といふべし。雷鳥といふは一名、松鷄といひて、高山の樹根をあさりあるく鳥。雷の音聲はもたず、雷の光はあらず。何故雷鳥の名をえたるかをしらず。雷魚又しかり。雷木といふは生活ある草木にあらず桑の木にてもタヲの木にても、擂鉢に入る時は木篇に雷といふ字を有する名を得。此にて之を「すりこ木」と訓す。ゴロ〳〵より出でたる名なるべければ、此のみぞ正當の権理ある。

雷の伴隨たる電は、その早きに於て勝る。元來雷とは同所に同時におこるべきものなれど、音響の空氣中を傳達する速度は一秒時二千百フィートなれども、光は同じ一秒時に十八萬六千六百八十英里を走る。されば光を見て後幾何の時間を經過せずば雷鳴をきく事能はず。時によりては、光のみ見えて音は達する間に消失する事あり。これ普通稲妻といふところのもの也。故に早き譬には電光を引けり。佛足石の歌に

いかづちの光の如きわれの身は死の大君常にたぐへり、おづべからず。

とあり又近代の人の歌に

世の中のはか無きほどにくらぶれは
尙稲妻も久しかりけり。

とあるが如し。角力取に雷電といふがありき。これは電光の如き手取なりけむか、聞かまほし。近頃報知新聞に連載せるいなづま強盗といふも、その悪事に於て手練の早き事電火の如しとの意より受けたる名なるべし。(未完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

彼岸の小勝

白水郎

房の山、總の水、由來、勝地に富む。而して其房州海岸、殊に東京灣口を成すところ、鷗汀砂嘴の上、芙蓉峰の觀め、海波の變化する、愛すべきは此れなり。見よ富士の扇頭、大夫岬に懸りて、白雲の搖曳するに隨ひ、數帆亦其間に動きて、長く煙波の裏に去就す。或は南無谷、富浦の邊、潮、磯に入り、山、舍を繞る所、濤聲枕に高ふして、曉夢醒む。或け金谷、加知山の浦頭、藻鹽草つねに清渚によする所、已に輕鷗を追ひ飽きて、更に潑溂たる鮮を煮る。或は鏡ケ浦、鏡面より淸く、微風之に觸れて、翠漣起り一葉漾ふ。或は天低く、星なきの夕、烏賊釣の漁火、點々遂に集りて、海上爲に市をなすの盛觀あり。遊賞之に止まらず、若し夫れ、洲の崎岬頭、潮聲俄かに激すれば、雲霧眼を亂して飄へり、高浪天を蹴て浮ひ、四邊皆暗澹たるのとき、沖の一方巨鯨叫びて朦朧壞れ、景致轉た悲慘を極む。嗚呼彼岸の小勝、予は言を吝まざるなり。

鬼面百相（其七）

青柳有美

○新聞記者の武器は、ペンに非ずして名刺なり。

○婦人は、人を崇拜せずんば、人を輕侮す。兎角中庸は之を女性に索むべからず。極端は其本性なり。これも例の『こりや性』故と知れ。

○天地は總て累加法なりと知らずや。原因に少しの差異あれば、其結果に影響するところ、頗る莫大なり。猶ほ平均せる天秤の皿に、少しの重みを加ふれば、瞬時にして其棒の傾斜著きが如し。是に於てか、勞力の功能に少しの差あれば、その給銀に雲泥の相違を生じ、墓地は其坪數を增す每に頗るその地價を累加し、硝子板の如きも小板の割直段を以て、大板を購ふべからず、又物体の墜落には加速の法則あり。

○人間の愛情も亦ニユウトンの引力則により支配せらるゝものにして、距離の自乘に逆比例す。『離るゝほど胸の思ひはいや勝るなり』などいふこと、皆な我れと人とを欺ける言葉なれ。但し、愛情にありては『時間』も『空間』と相等しき作用をなすものなれば、相別れし時よりの年月の自乘にも逆比例

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

するなり。之を『人情物理學』の一端とす。

○岡崎雪聲氏が、南洲の銅像に失敗せるは、純然たる洋風鑄造を取らず、さればとて又純然たる日本法にもよらず、怪しき東西の調和をなして、しかも其堂に達せざりし故なり。又獵犬を配せしも無類の失策なりと知るべし。

○光琳は奇拔なり。

○厭世も一種の道樂なりけり。貧乏人に厭世家の出でたる例なし。これも生活に不自由なきより起ることぞ。されば厭世も一種の贅澤なれば、之に奢侈税を課すべしといふものあり。

○文部大臣樺山伯、先つ頃各國公使を招じて小石川植物園に午餐會を開く。その日、首府東京の新聞は報じて曰ふ『餘興のため音樂學校生徒をして、ピヤノを吹奏せしむ』と。ピヤノとは吹くものなりと心得居るにや。

○今の人々が思想の相違は、多く、その學ぶところの國語の相異るより來る。和漢學に其頭を固めたるものは、如何に新思想に富み新教育を受けたりと稱するとも、英獨に頭を固めたるものとは、遂に相一致し難し。何處にか思想の流れの、相違ふものあればなり。英の人と獨の人とも又然かなり。

聯者道のものとはなり難し。五十五歳頃よりは、後生を願ふ
心が浮び出すべければ、從て罪惡甚[illegible]

○大阪上りの俳優には、仲々有力にして技倆拔群のもの多し。女寅、時藏、片市など皆しかなり。流石は劇の本場なりといふべけれ。

○婦人は、如何に靈性に秀でたるものといふも、幾分の俗情なきはなし。この滿足を與ふる能はざる男子は、則ち兇はる。

○花見に女といふもの丶出でずば、あれほどの賑かさは見るを得ざらむ。花見にも中世紀の武士根性は行はれ居ると見えたり。

○時間の感念は、筋肉の運動により、始て生ずるものなり。

○『貝の柱』と稱ふる食物は、眞にこれ江戸ッ子の食物なり。冬の頃、細君風の婦人など蕎麥屋に入り來れば、必ず『あられ』を注文するもおかし。

○或人曰く『近頃は鳥の數よりも、鐵砲の數が多くなッた』と。

○文章と演説との差は、なほ書と音樂との異るが如し。

○女には友なし。否な、人には友なし。

○結局、人間は獨立せざるべからず。夫婦とて何ぞ。

○四十五歳頃までは、所謂『いろけ』といふがあれば、仲々に極

○芝居の二日醉ひといふものあり。

悪非道のものとはなり難し。五十五歳頃よりは、後生を願ふ心の浮び出づべければ、同く極悪非道のものとは成り得ず。されど、四十五より五十五の間までは、この二つともになき故、人、變じて悪魔となる。

○何故に、烟草を吸ひ酒を飲むやと問ふものあり。答て曰く、烟草も酒も悪きもの故、之を吸ひ之を飲むなりと。

○北方の婦人は、凡て皮膚滑かなり。是に於てか、英吉利、加奈太、墺太利などには美人多けれど、佛蘭西、西班牙など南方の婦人は、その色澤美しからず。我が邦にて北國女の見目よきも、是れと同じ理りなれ。

○餘所行きの着物といふものあれば、餘所行きの心といふもの、又あるべき筈ならずや。それを野暮くさく彼是れ僞善呼りするは、まだ〳〵不粋の骨頂とこそ申すべけれ。これは、さる人の言葉なり。

○植物が、土地の種々なる成分中より、我れに適せる成分のみを吸ひあぐる如く、人はこの複雑多面なる宇宙のうちより、『己れ』を養ふべき眞美善を収め入るべきなり。

○忙しく鵜の目鷹の目の人ほど、却て嫉妬心強し

○芝居の二日酔ひといふものあり。

○薔薇には皆な刺あれど、刺ありて薔薇ならざるものも多しと、例のベーコンいへり。自分免許の賢婦人達、之を如何に思召すにや。

○唾しかけたきは、ゼントルマン（紳士）といふ言葉なり。我れは生れてゼントルマンたらんより、寧ろ死して悪魔たらんことを希ふ。ショウペンハウエルも又然りしと。

○鳥の鳴くは、異性の愛を引かんが爲なり。嬰兒の泣くは、親の愛を注がしめんがためなり。

○晝飯後に眠くなるの兆あるは、體中の血液多く消化器に集り來りて、脳を始め其他の機關の機能、稍々遅鈍となるが故に非るか。

○婦人の老て腰曲ること男子より早きは、全く帶の作用によることにて、その重量にひかれて、後に倒れざるためにと、事更前へ屈み加減にするより、遂に慣れて早く腰曲るに至るべし。

○バイロンは終身迷へり。これ其の偉なるところなり。

《まだ〳〵ある》

寄書

戀愛を論ろいて亡き友をしのぶ

女學雜誌をものし給ふ方々、名も知れぬ賤の女の文ならぬ文を掲ぐるをゆるし給ふや否や。充分に朱を加へし上に、册のかたはらを借し給はゞ、如何許り幸なるべき。

白百合

なほ〳〵名をかくして巾のべざるの罪をゆるし給ひてよ。

◎Love てふ文字は愛と譯すべきか、戀と譯すべきか、わが國にありふれたる意より、戀としては何とはなしにある一つの思想これに伴ひ、愛としてはいまだ物足らぬ心地す、さらは戀愛といはんか、これにてもなほ意に滿たず、さあれ言ひあらはすべき文字しなければ、戀愛てふ文字にて背くべし。

◎戀愛の神聖なるは今更にこと〳〵しく言ひたつべきにはあらず、されと古よりこの文字ほど多く誤られしは少かるべく、また人をして希望の丘に進め、あるは失望の淵に沈めしはなく、また樣々の歷史を作らしめしはなかるべし、若しこの世よりしてこの文字をとり去らんか、必ず無味乾燥にして、恰もサハラの砂漠とては二一添作の五的の趣味なき世に化し去るべし、これありてこそ人情の花も咲け、紅の涙の色もなつかしかれ。

◎さてその戀愛のうちにわけても小女の戀愛ほどうれしきはなかるべし、さる歌人の「はづかしみよくも見ざりしおも影の忘れ難くはいつなりにけん」とうたひしその心根の如何に床かしき。若しもこの戀愛の爲めに死なざるべからざらば、われは喜んて死ぬべし、吾れを犧牲とせざるべからざらば、われはためらはてこれを獻ぐべし「戀せすは人の心もながらましもの丶あはれはこれよりぞ知る」なれば。

◎かく記るすにつけて思ひ出るは、今はあの世の人となり給ひしとし子の君にこそ。君はわれよりは二つの妹にて四とせの月日同し學ひの窓におき伏をともにし、時には手をひきつれて春の花にうたひ、秋の月にあこがれき、特にまたよそ人の知らぬ互の秘めごとさへ言ひかくすことゝてはあらざりき。アヽ今更にしのばるは君か戀愛につきての一事にぞある。

◎學びの道もはや三とせを過ぎ、こん春には卒業てふ月の冠は互のかふべにかざゝれんとする秋のはじめ、學の窓の再び開かれし夜半のことなりき、君は語りていひける樣、親しき友よ、きみも知らせ給ふ如く、この夏は興津の濱に、たらちね、はらからと共におくりはべりぬ、君よ笑ひ給ひぞ、妾は戀といふものもしこれならば、妾はこの時はじめてこれを知りそめしぞかし。

◎思へは望の夜のことなりき、ヴワ井オリンを巧にひき給ふ若人にして、兄君の學ひの友は東京より音つれ給ひき、兄君はいたくも喜びてとやかくともてなし給ひ、月海原の彼方にさしのぼり、黃金の波をたゝよするころ兄君はこの若人にヴワ井オリンの一曲をもとめたまひぬ。曲は何れの節なりしか忘れしもヴエートヴエンの作なりき、かくてまた妾をかへりみ給ひ、この君の曲にあはせて手なれの琴をかなでよと言ひつけ給ひぬ、いろ〳〵にいなめども許し給はされは遂に六段をあはせにき、妾はこれまで幾度となく合奏てふをなせしも、あまりに滿足せるはあらざりき、されどかの君の巧なるにいたくも心をうたれなにとはなく、かの君なつかしふなり侍りぬ、君よこれが妾か身に戀風の深くもそみし始めぞかし。

◎そのあくる日あさまだきより、かの君は妾と婢のみをのこし家の人々と共に船遊し給ひぬ。この日程近きほとり住ひて居ますあや子の君のおとづらるゝなれば、よくいろつきし李の實をとりてすゝめはや庭に折たてる折りしも庭の入口にかけ乾し置し單衣を落しければ驚て再び揭げしも裾のほとりいさゝか土つきたれば、そをつまみあらひせしを、意地わるき婢はこれを見やりて、そはゆふべ來ませし方の御單衣よと云ひさまほゝ笑みぬ、妾はさては思ふ心や色にあらはれけん、頰のほとりあつき心地しき。

◎とやかくせる間にあや子の君はたづれ來ませり、婢はこのことを告げまつれり、あや子の君もほゝ笑みて妾の顏を見給ひぬ。その時妾の胸の鼓動は人こそしられ、淸見寺の鐘よりも音たかゝりき。

◎夕つ方遊びの一むれは歸り來ませり、かの君は嬉よこれを土產に進ぜんにとうるはしき海草をたまへり、君よそをうけとる妾が手はいとふるへりき、などてかくまでふるへるか妾自らさへも悟り得はべらざりき。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◉かの君はあくる朝に京都へさ打向ひ給ひぬ。されどかなで合せしヴワ井オリンのひゞきは深く妾が心に高く、給ひし海草も物いふらん心地しき。

◉袂を分ちしよりはや一ヶ月、再びかの君を見まつるはいつなるべき、消きヴワ井オリンをきくはいづれの日、げになつかしさもなつかし。

◉名をさ云ひ給ひぞ、如何にして妾はそを告げまつる程に大膽にはべらず、しばらくゆるさせ給へ。

◉かくひめごさを語り給ひしさし子の君はしも不圖せし病にて七日ヶ間、床につき給ひしのみにてはかなくも身まかり給ひぬ。うらめしきは心なの夜嵐なる哉。

◉いくその人々の涙は雨さふりそゝぐも、されども君の蘇ぶはたゞかの君の一さしづくなるべし、かく記せしわれもまたそれさはほゞさされさも、その誰人なるかはさだかならず。アヽ知らずヴワ井オリストいづれのさころに住ひ給ふらむきてはありしその日にかなで合せし糸のしらべの今なほきよきや否や、あはれ名をさへ知れぬ君よ、さし子の君はうせ給ひしぞかし、君を思ひつゝけてあの世にいますぞかし、せめては夜半に一回をかなでし、中有の空にまよふ君に、告げまつりてよ、人しれぬ思ひみまかり給ひし戀人のもさにいたしてよ、あな恐こ。

通報

戸川殘花子の長男、香港に遊び、左の家信を寄す。年少盛春の兒、風物感慨の情を異にす。讀者は蓋し珍さして愛好せらるるならん。

樂しき香港、美しき香港

在香港　王　與　南

樂しき事は遊びさ散步に候、遊山には香港は持て來ひの所にて、すぐ前は海一二丁奥は山にて「ケーブル、カー」に乘すれば十五錢にて「ピーク」まで二十分許の內にて往復するを得べし、淸人さ一所ならば二錢にて九龍に復往すべし、實に香港は運動には此位ひ善き所無之さ思はれ候、往來織る如き都會より、二時間位にて海を渡り、山に登り、田舍に行き、谷を越へ、然かも金を少しも費やさゞるなり。散步には朝宜しけれど、五時か六時ならでは最早や往來多く、且學校に赴くに疲れ過ぎるより、夜食後より海岸、山手等散步仕り候。海岸の景色は私最も氣に入り候得共、何所も不潔且往來多き故、何時も會社より牛町餘りの九龍通行船の着く棧橋邊、二三丁の間も散步仕り候、此所は船の着くも少なければ、往來多からず、且淸潔なり、棧橋に居れば「ざー〱」さ音して打ち寄する波は心を洗はるゝ如く、ランチの汽笛は氣が生き〱仕り候、殊に土曜日等は奏樂堂(city bell)の奏樂聞え、後なるウイクトリア山は黑巨人の如く、中腹なる住宅の燈火は、螢火を通り過ぎ銀河の如く、海岸には新築借家、香港クラブ等屹然さして立ち、前には幾万の艀、小舟、汽船、軍艦より發する燈火、水に映するあり、實に香灣は燈灣さ變ぜり、殊に月良き日は九龍の山に霧立込め、海風徐に面を吹き、氣淸々さして仙境にある如く候。

又時には、支那町「クエス、ポーント邊」を散步仕る事有之候、此所は黑死病巣窟さも云ふべき所にて、往來最も烈しく、人口最も多く、最も汚なく、料理屋、女郎屋、芝居、露店最も多き所にて、市街は夜も晝も同じく、無數の電燈、瓦斯、提燈にて空に一種の色附き居り、其狀殆かも日本の緣日の如く候、此は散步さ云ふも、景色見物又は氣晴シでも無く、諸所目貫の所覺え置く爲めなり、故に何時も佳井氏を引張り出すなり、香港も此邊に來ては堪り不申候。

同じ市街にても、中環(play central)は美はしく候、殊に中央時計臺（香港ホテル横）邊より(city bell)邊までは、西洋人が西洋風の商館を立てたる滿商人たる故、夜は早く店を閉ちるより、往來少なく、淸潔にして大電街燈の光にて、夜も晝の如く、路傍の綠樹陰涼しく、花實は一種の面甘味を添へ申候、此邊は大商館銀行、ホテル等多し。

山手の散步は實に面白けれど、坂路のみにて、疲れ過ぐるにより、始終出來ず、何時も政廳、公園附近に赴き候、此邊街頭は四時明月の夜の如く、大道砥の如く路傍には數圍の茂樹欝々さして路を蔽ひ、丈餘のしゆろは亭々さして空に聳へ、數丁に亘る竹樹あり、其間點々住宅教會あり、ピアノ讃美歌の聲、虫の音、谷川の水「ケーブルカー」の響きさ共に合して一の奏樂の如し、此の間を白色の歐米各

國人、紫の如き色の亞非利加人、黄色の支那日本人の往來より、且ヴイクトリヤ山中腹の住宅、港内の燈火は、大油畫の如し、實に香港の山は公園なり、歐米の地を踏みたるものは市街は何とも思はざるべし、然れども此山に驚かざるものはなかるべし、實に此山は香港の如何に盛大なるかを知るべし、然かも皆人力にて成りしかを思へば、人力の大なると驚くの外なし。

香港の美景は散歩(夜)丈にても宜きに、其朝晝の景、山上の景に至つては到底想像する能はず、然も土地挾ければ景も小なり、香港の景は多く日本的箱庭景色なり。

朝晝は、山手、市街は同じ(夜)なれど、海は其景名狀すべからず、霞こめたる九龍の山、軍艦汽船のぼんやりと見えたる所は先年白馬會出品安藤氏の畫思ひ起し候、且背なるヴイクトリヤ山の朝霞、其中に見ゆる白き住宅、朝日の山の端を離るゝ景等は到底實見せずして想像すべき所にあらずと思はれ候、晝は格別の事なけれども天氣好き日は、九龍の山は川向ひの如く、港内の景實に氣の洗はるゝ如き思ひ有之候、外は格別の事無之候。

山上の景色は實に格別にして、其出入船舶信號旗の所に至れば綠樹の間點々たる山腹の住宅か隔てゝ下に香港の熱鬧を見、港内は齊盤を敷ける如く、軍艦汽船其他の船は地上の附木船の如し、其先きは九龍市街を隔てゝ、高山連綿たり、反て後及香港島周圍を見るに眼下に見ゆる小市は、香港チヤイ(英名aberden)なり、無數の小島は、松島の如く、其景は筆に書くべからず、只一千七百六十尺の高山の上より香港島(周圍十三里)と九龍の小部分、及香港近海を一眸の下に集めたると云ふ事に御想像願上候。

先づ美なる樂しき香港を是迄に仕り候、文章やら手紙やら話しやら分れねどまし是にて御勘辨願上候、壽命があらば歸つてゆつくり話すが、そちらより御出で被下候はゞ大慶に存候、右は私始めて海山の景色を見たるにより斯く其美なるに感し、過賞かも知れざれど、其邊は宜い加減に爲　說被下度候海の景色は橫濱神戶で見られゝかも知れ申不、然し山上の景と支那町の汚さ、山手の閑靜は、世界萬國なからんと思ひ候たとへ行りても趣か違ふならんと思ひ仕り候、先づ餘計の事ながら一寸御斷り迄。

女社會學通信答報

●信州南安曇郡東穗高　落葉

(一)男女交際の有樣

未婚の男女の交際に對して世間の制裁は嚴と云はんよりはむしろ疎遠なりと評するを適當なりとす。一般に男尊女卑なり

(二)家庭に於ける女兒の狀態

家風庭訓の及ぼす教育上の特色なし、女兒の遊戲に盆踊、釜飯(五月田植終りて數日の後村内一定の日に休息をなすが例なり此日は子供等は小川のさゝやく綠蔭に集り飯を炊き菜を煮などして互に食するなり所謂まゝごとの類なるべし)手球等」あり、

(三)主婦の義務、勞力、財産等に於ける特別の狀態

主婦は家事を整理するの傍ら男子と共に農業養蠶に從事するの義務を有すれども必竟器械的に動くに過ぎず、中流以下の婦人は却而男子を壓倒するの觀なり之れ即ち己が得たる賃錢によりて生計の幾分を補助し得る婦女なれば也之に反して其れ家の主婦は殆んど凡ての事に權勢を有せず金錢の出納は勿論料理の獻立、世間への義理首尾等些細の事に至るまで一々男子の指揮に依らざるはなし、

(四)下女の風習其雇入の方法規約、彼等か風儀及び下女に對する家庭の態度

下女は一ケ年の給料を何程といふ定めにて雇ふ、彼等の風儀はよろしからず大低は饒舌にして村の若衆と云々の騷ぎは珍らしからず、彼等に對する家庭の態度は先づ寛大なる方なり故に貧家の婦女子に「奉公をさすればかゝる困難はすましきもの」なほ常につぶやき居れり

(五)女子の嗜好の傾向

祭文、源氏節　神佛の祭り、衣類の色を撰らぶのは凡てよごれ目のたゝぬいはゞ經濟的のもの茶、紺、鼠等をよろこぶ、顔の美を貪するに優し、さいふことを第一に教ふ、

(六)婦女子の勞働の狀態

勞働の時間に定限なし、一日の平均賃錢養蠶農事十錢十六錢内外、幼女の勞働者として子守」あり

一般婦人の勞働は昔時に比して大に減小せり否簡便になりたるなり、工女の風儀最も亂れたり、

婦女の從事する職業の種類は機織、製系紬引、等　婦人の勞働は男子に比して過度なり、女子に職業を撰擇するの自由なし、婦人にして生計を支へ得るの賃錢を取るもの稀なり、

(七)婦人慈善事業の有無

慈善事業なるもの一つもなし、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(八)婦人會の有無
婦人會とも謂つべき觀音講あり毎月十七日の夜順次各自の家に集りて經を讀み後ら豆いり、其他種々の茶菓を喫しつゝ深更に至るまで雜談をなす、
(九)婦女子の教育に關する一般世間の意向
大概は尋常小學以上の教育をば不必要と認むるが如し、學齡女兒就學の割合は十中の六なり、
(十)女學生の風紀
小學校生徒の外に女學生なるものなし、
(十一)婚姻、離婚の方法、及び再婚に對する世間の思惑。婚姻を行ふには媒妁人の外には親といふものを立つ　そは嫁の保護者たるべきものなれば財産名望人物等凡ての點に於て其姑舅なる人よりも勝りて權力ある人たらざるべからず其はれ親は婚姻の夜嫁におはぐろ箱を祝儀として贈(衣類も祝儀の内に加ふ)り諸事萬端嫁の側に附き添ひ世話をなし將來も亦保護者たるの義務を盡さゞるべからず、總して再婚をいたく輕侮するの傾きあり、初婚大凡の年齡は十八九歲なり
(十二)女子の風俗
幼少の女兒は皆髮を剃り十歲前後になりて男曲になし十二三歲より銀杏がへし(此地にては元結かけといふ)嫁にゆけば年齡の如何に係らず丸曲(單にまげといふ)に結ひ五十歲前後に至りておばこに結ふを常とす涅齒眉剃は殆んど從來の儘なり私生兒は割合に少し、密賣者は年々歲々に增加しつゝあり、大抵の婦人は多少飲酒喫烟せり、近所の交際は表面上極めて親密なり、
(十三)殊に目立たる女の服裝は着物、手回道具、記すべき程のものはなけれ共勞働する時は紺の雪袴をはけり(股引と袴とを折衷したる丸き仕立方なり)
(十四)宗教上に於ける婦女子の信仰、事業、勢力
凡て宗教には極めて冷淡なれ共神佛と稱すべきものは何にても多少信仰するものゝ如し
(十五)尼、巫女、妾となる婦人
巫女は此地の婦人に限られ、尼妾は大抵飛彈婦人なり
(十六)女子の言葉に關する特別の氣付き、
言葉使ひていねいにて大概の物におの字を付く、下等社會は何處も同じことにて野卑なり、殊に耳立ちて、聞ゆるは女房といふことをおかつ樣といふことなり
(十七)女先生女先輩、又有力家にして其地方の婦女子を感化するもの並に其姓名小傳、　無し
(十八)婦人に關する有名の古跡古碑、並に其小史
今より幾年昔の事なりしか○○藩主世に二人とはあるまじき程顏ばせの醜き姬君を持たせ給ひけるが、誰ありて御緣談の緒を開くものなかりき然るに○○藩公極めて小祿にて財政の困難甚しかりければ一萬石を添へて其姬君を迎へ玉ふ事となりぬ、されど元より貧の方はありけり又姬君はきゝしに勝る醜婦なりしかば愛想をつかし玉ひて一室に閉ぢ籠めまつりぬ夫より姬君は益々世を果敢なみ殿の無情を怨して終にはかなく失せ玉ひき、流石に殿も後めたく思召してか一ツの祠を建て姬の怨魂慰め玉ひしとぞこれより醜婦の形容詞に其姬君の御名を取りてあれは義國樣なりと云ふに至りしとぞ
(二十)密賣者及娼妓の稱呼、並に是に對する憎惡の輕重、
密賣者を曖昧(アイマイ)女といひ娼妓をお女郎と稱して大に卑しむ。

時事

○小坂象堂子を悼む

美術記者

今も其畫題さへ覺えて、ひたすら忘れ難きは、昨秋、谷中美術院に開かれたる繪畫共進會にありし『秋郊雜興』の圖なり。日本畫といへども巧に之に洋畫の風致を加へたる樣、凡筆とは覺え難かりければ、作者の小坂象堂とは、如何なる人なるやをも知らで、一寸筆のすさびに書きつけ置きしが、後にて聞けば、此人元來は巧みなる油畫かきにて、今は美術學校の助教授なりとのことに、さこそと首肯しき。近く逝て、其逸事遺聞の殘れるもの、友のために輯められて『日本』新聞紙上にあり。讀み終ふれば、亦一箇の超俗狷介なる奇才子、彷彿として眼前に浮び來る。その世と相容れず、しかも狂熱我身を燒て、終始畫神のために獻げ、遂に終ふるに至りしもの、何等の恨事ぞや。女學雜誌の美術記者は、大日本帝國、この一人の狂熱畫家を失ひたるを深く悼み、謹んで涙の滴をさゝげて、手向けの水に代ふと爾云。

○興行物の大入と讀書

有美

新春早々、東京は興行物の世の中となりて、角力も芝居も、さては、ヤッサ〳〵と近年になき大入なりとは如何なる意味を示すにやと問はゞ、正しく是れ日本人が讀書趣味の減退せるを現はすなりと答へん。我が邦人の讀書を面白ろがらざるは今に始めぬことなれども、近來に至りて殊に甚しく、小說を讀むさへ小面倒臭くして、其れ此れと智力をも用ひざるべからざる故、讀めば其儘飲み込み得る講談物などの流行するに至れるなり。されど、今はこの講談ものをさへ、面倒にて稍々腦を用ひざるべからずと見てか、自分は唯座れるのみにて別に格段の煩はしさなくまた他人の働きにて面白ろしと興がり得らるゝ興行物を樂み悅ぶに至れるなり。その不精さ加減、箸にも棒にもかゝり難し。寄席などいふもの、

便利さいへば便利の如くにも思はるれど、東京人の讀書力を減殺し、不精を増さしむるに預りて力あるものなれ。

○めくら長屋の評判むすめ　同

地方の讀者などは知り給はざるべけれど、東京は本郷なるめくら長屋とぞよぶ邊りの書籍雜誌店に、近頃評判のむすめ一人あり。其家の始て店開けゐ頃、其店頭に此女子あるを見て、世の常の看板むすめなどの如く、いやらしく下卑たる向ならずして、珍らしく氣高く優麗に見えければ、私に美神の名に於て之を祝し、風敎のため幸多きことなりと思へり。されど、こは人の身の上にかゝれば、たゞ胸に潛めおけるのみにて、筆にはのぼせざりしに、近頃は大學わたりの猥連ども、之がため非常に立ち騷ぎて、その噂の、間々新聞紙に出るまでに及べり。かく騷がれて鬮を簇るものは、其女子の品性なり。店の賣れ高如何に增したればとて、仲々にこの損失を償ふるに足るまじ。其後、店の前を通る每に窺き見れば、かの娘の面持愈々なり下り來りて、足まで白粉など塗らざりしに之を塗りだし、いやらしく下卑たる相の、益々加るなど、腹立たしき程なり。その心の純白なりしも始めに變りて如何に損はれしにや。いとあわれに覺ゆれ。凡て人の女を損ふは、その境遇性質にもよれど、全くは猥連經師屋連などの罪なりと知るべし。

『次號の時事欄には愈々「名優下馬評」現るべし』

○西本願寺亦人ある哉　キリステヤン

舞台等東派の面々、諸宗佛徒を率ひ佛教をして公認教たらしむるに運動せんとして、所謂運動費なるもの三萬圓を募るの時、西本願寺派獨り憲法の正條を盾にして、毅然たる反對を之れに向て試む。西本願寺派眞に人ありといふべし。その着實にして、しかも進取的なる布敎手段は、東派の如く山師氣にして浮華なることなく、將來國民の崇尊を受くるに足れり。哀ふべき西本願寺、亡ふべき大谷派！而して西本願寺の此所に至れるは、反省社同人諸子の化力、預りて多かるべきを思ひ謹で同社主筆以下社員諸子の勞を讚揚す。

片々

◉雞兄雞弟　朝鮮人趙東潤が同時に二人の妻を持たきよし出願せりとて、本邦の諸新聞喧傳して大笑となせるが、時事新報之を論じ、「雞兄雞弟」と評して曰く、顧みて我國の社會を如何と云ふに決して朝鮮人のみを笑ふを得ず日本人には公然兩妻の許可を出願したるの沙汰はなけれども實際の亂行は單に一夫兩妻のみに止まらず一夫數妻の實を行ふて平氣なるもの多しと云ふ西洋文明の國人より見なときは此一點に於ては朝鮮人と比較して雞兄雞弟の間に在りと認むることならん。

◉宙外氏有美君の評　背柳有美氏が「卒業の女學生に告ぐ」「惡人の心理學」「藤村氏の詩」一種奇警の見解常人の思ひ到らぬ機微を抉出し來たる所今後圓熟し來たらば大に刮目すべき文士ならん唯惜むらくは往々餘りに常識に背けるが如きは服し難しされど氏が如き人には寧ろかゝる缺點はその長所をもて優に償ふを得べしとなす特に有美氏が女子論には双を以て胸をえぐるの如き深刻奇警の說に富む内村鑑三氏を知り齋藤綠雨氏を知れる今の文壇も此快男子を知らざるは怪むべし（新小說、第四年七卷）

◉新女大學　京華日報曰く、翁の新女大學は宛もこれ爲永春水が彼の如き男女の痴情痴行を書き綴りて而も尙自から教訓と稱する如し」國民新聞の東京たよりに曰く、新女大學は、其の趣味の寧ろ野なるが如き、甚だ心外に候。貝原翁の女大學には、甚だ不服なれども　其文字言語の何處迄も醇儒的にして、和易溫厚の態を失はざるは敬服の至に候。

◉男女兩性の轉化　婦人論の勃興と同時に日本婦人が固有の貞婉順從克く内を治むる柔的性を失つて、活潑明敏惡るく云へば捌つ返りとなり、外に働らく的强性に轉化せんとするは掩ふ可らざるの事實なり、今ま女子の勢漸やく盛んならんとするに方り、顧みて男子の言動と操守とを見るに、胸に婦女子化せるが如きを覺ゆ……男子が旣に剛健の德を失ひたるの實ある以上は、彼の女子が柔性を失ひたる事實に照して此問題に微妙の機なからんや（京華日報、六月十七日）

◉基督教徒の社會問題　近頃社會問題を說くもの漸やく增加せり。此際基督教徒は其本色に立歸りて、是等改革の先鋒中堅となるべし。之に付て心すべきは。第一、家族の禮拜を盛んに興し之を規則正しく有益に實行する事。第二、各教會の婦人會を改良し組織を整へ其事業を擴張する事。第三、教徒の結婚道德を振肅し、神に於て娶り神に於て去るの大義を明にすべき事　（福音新報、六月二日）

⦿圖らざりき巾幗社會先づ挺身せんとは　一昨日ころの諸新聞紙に婦人平和會といふものゝ廣告あり其の何人等の發起に係れるやを知らず、而かも其の旨意が世界の平和と萬國の同情とを厚うせんとの目的に在りと言ひ、歐米諸邦の婦人聯盟に傚らひて日本婦人よりも蘭國に於ける萬國平和會議へ、平和を冀望するの書面を贈らんと言へり。歐米諸邦到處に平和會といふものゝ存立して、專ら世界の平和と國際の同情を永く維持せんと欲しつゝあるは、世人の洽く知る所なれども之に與みする者は經濟家公法家及び宗教家の類たるに止まると言ひ、歐米の文明を口癖にする輩すら、之を重要視すること無き、是れ我邦の現狀にあらずや、圖らざりき天下の大事を議し百年の長計を談ずるを以て自任する男子が冷笑する間に、巾幗社會より今や敢て挺身して之に盡力せんとする者の出でんとは。吾輩は夫の婦人平和會なるものゝ實相を知らずと雖ども、唯だ其廣告を見て時運の變遷を豫め卜せんと欲するなり。（日本、六月六日）

⦿札幌老農婦　の名を以て佐々城豐壽女史、時事新報に寄書して大氣焔を吐かる曰く、曩に雜誌をも發刊し婦人の技倆尙ほ幼稚なりし當時に於て事情の許す限り運動を爲したるに攻擊は外部に尠なくして意外にも同性の女子より非常の反對を受けたり實に怪しむべき事なり同性の女子等は男子の爲めに蔑視玩弄視せられ更に夫婦間に至りては言ふに忍びざるの慘虐を受け人間の資格を有せざるまでに度外視されたるにも拘らず而かも同性婦人に反對多くして陰々密々に妨碍せられたるは何故なるを解し得ざるも畢竟嫉妬より生じたるなるべし。……」又曰く、聞く近頃高等女學校々長協議會に於て種々の條目を議したる後委員より女生徒の服裝と結髮の樣式を布告せりと老婦はこれを讀みて呆れざるを得ず校長先生が態々各地方より東都に集り貴重なる時間を費し服裝結髮等の些事を論ぜらるゝは世にも勿體なきことなり元來學者は世情に疎き者にして異性なる婦人の氣情に通ずるが如きは望む可らざる所なりたとへ能く之に通ぜる人ありとするも女子の服裝結髮の如何は男子の干涉すべき箇條にあらざるなり老婦は憚からず斷言す數百の學者が名論卓說を幾年續けらるゝも男子によりて婦人問題を講ぜられ女子教育に容喙せらるゝ中は決して神聖の婦人問題女子教育の當を得たるものにあらざるなり敬愛する同性諸君よ女子教育や婦人問題等は婦人の大責任にして又天理なるを自任せられん事を切に勸告す。

一覽要目

◎基督教徒の社會問題　福音新報第二百五號（六月二日）
◎國際談判の考案（婦人平和會）　日本（六月六日）
◎坂本龍馬の未亡人　報知新聞（六月六日）
◎日本婦人の態度（万國平和會に對して）　毎日新聞（六月五日）
◎万國婦人平和會と日本婦人　中央新聞（六月五日）
◎私生兒の父　万朝報（六月五日以下）
◎令孃鑑（柳澤秀子。松浦勝子。稻葉春子。田村邦子。）　千代田日報（六月六日以下）
◎女傑叢話　東京朝日新聞（六月五日）
◎女子に告ぐ（札幌老農婦實は佐々城豐壽）　時事新報（六月七日）
◎女學校巡り（共立女子職業學校。與風女學校。鳥海女學校。女子學院）　千代田日報（六月六日　廿日）
◎男女の學說（婦人と宗教）　時事新報（六月五日）
◎花一枝（世界平和會議と万國婦人同盟）　下野日々新聞（六月六日）
◎非道の繼母（狩野忠信の夫人）　千代田日報（六月六日以下）
◎假面の女教師（柴田靜榮）　やまと新聞（六月六日以下）
◎盆栽の流行　東京朝日新聞（六月七日　八日）
◎夫人の素顏　鳩山お春夫人。青木エリサベツ夫人。　報知新聞（六月八日以下）
◎外相と婦人平和會　毎日新聞（六月八日）
◎青木外相と婦人平和會に就て　京華日報（六月十日）
◎樂しき家庭　東京朝日新聞（六月十日）
◎戀愛の現實主義　大阪毎日新聞（六月十日）
◎卑猥の新女大學　京華日報（六月十一日）
◎青木氏の女子教育談　土陽新聞（六月三日四日、六日）
◎新女大學　時事新報（六月八日、十一日）
◎滊車馬車の中（老幼婦女に讓れ）　報知新聞（六月十一日）
◎女子と金錢の取扱ひ　時事新報（六月十日）
◎市ヶ谷監獄の女囚（上中下）　東京朝日新聞（六月十五、六、七日）
◎東洋婦人聯合會設立の必要　讀賣新聞（六月十五日）
◎嗚呼海外醜業婦　朝日新聞（六月十五日）
◎可憐の同胞少女　東北新聞（六月十四日）
◎生花の歷史（上下）　讀賣新聞（六月十、八、九日）
◎藝妓の弊風　万朝報（六月十九日以後連載）
◎東京の婦人と猫煩腦　東京朝日新聞（六月廿日）
◎女教員の養成　いなか（六月二十日）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

●婦人會續々として起る　婦人論の盛んなるや、事實に於ける第一の影響は、先づ婦人會の勃興に於て其結果を見る。明治十八九年に於て漸に斯の如かりしが、今や亦た其の如し。近日に於て地方に新に開く所の著名なるもの三つ。曰く、福島町に於る婦人講話會。曰く、足利町の足利婦人會。曰く、島根縣濱田に於る濱田婦人會。

●瓜生會　板垣絹子、岩佐徳子、原禮子、大山捨松子、樺山登茂子、河野園子後藤和子、四鄕清子、三浦和歌子、土方龜子の各令夫人が先年死亡せし篤志家瓜生岩女の志をつぎ慈善と矯風とに主意を置きて大に婦徳を奨勵せんため唱導せるものにて十八日午後一時日本橋倶樂部にて其が發會式を行へり。假規則に曰く。

第一條　本會は瓜生會と稱し事假務所を當分神田區今川小路三丁目十二番地に置く

第二條　本會は故瓜生岩か國家に盡せし行跡に倣ひ國婦として婦徳慈善の實を興さるを以て目的とす

(一)婦徳の世に降ならんことを旨とし徳行卑細にして人の模範となるべき婦人を賞揚して弊れく世上に表示する事

(二)會員互に廢物利用の本心を發揮して上下一致して自營自勵一般婦人の模範を以て自任する事

(三)資力なくして就業し能はざる者には相當の業務を授け自立自營の途を得せしむる事

(四)志ありて學ぶ能はざる子弟を訓育して明治の徳澤に浴せしむる事

(五)時々集會して道徳家の講話を聽き及び本會業務の擴張を計る事

(六)世の慈善社會等の事業は及ぶ限り之を贊勵する事

●大阪府師範學校問題　同問題の紛議に付ては代議士及び大阪市長等調停中に有之候處、市部議員は然らば女子部を郡に讓る可ければ男子部は市に移し與よとの事なりしに、郡部議員は却て女子部なれば貰ふに及ばざれば、寧ろ斷然兩部共市に御讓り申すべし、其代り兩學校敷地は市部にて負擔されたしとの返答に、市部は否應のある可き筈なく、直ちに承諾し、是れにて一時大阪府會を擾せし同問題も玆に全く落着候

●醫學研究として女子の渡米（越後人）　中頸城郡諏訪村大字眞砂寺寺田穗妹ヤオ子（二十一）は高田女學校卒業後秋田縣秋田市の開業醫たる米國醫學士某女に就き修業中なりしが今回愈よ醫學研究として渡米し同國の大學に入る由（東北日報六月七日）

●藝妓の裁縫　今治花山會組に於ける藝妓置屋連は會議の上藝妓一同をして裁縫を習はしむる事となし今治花山會藝妓紅場なるものを大字米屋町一町目に設け數日前より藝妓一連をして午前八時より正午習得せしめ居るが自らも敢て猶応する模樣なく寧ろ勇んで勉勵し居るはさなりと縣下に於て藝妓に裁縫を習はしむるは今治を以て嚆矢とす　（愛媛新聞、六月十日）

●下婢主人に股の肉を捧ぐ　牛込神樂坂の蕎麥店翁庵の妻女キク（四十）は一昨年七月頃より左乳部に肉腫病を發し漸々增大して遂に大人の頭を二個合せたる程の大さとなり我が手にて支へざれば起居にも不便を感ずる迄に至りしより生命なきものと斷念め身の不幸を歎ずるの外なかりしに或人が切なる勸めに默止難く先頃本鄕なる順天堂に入院せり同院にては患者の衰弱甚しきを見て手術の際全身麻痺を施すの不可なるを察し一百倍の古加乙涅を腫物の周圍に注入して夫より大手術に着手し一貫目の重量ある腫物を切除きたるが此處大なる創面の植皮は豫て病族中の者の肉を充つるの例なるも折から他に障るとさありて間に合はずたりさて患者の他の皮肉を目前切り取らすに忍びずとて看護のため附添居たる同庵の下婢讃岐生れのトク（二十六）さいふもの自から願ふて股の肉を割き植皮法を施さしめたりと云ふ（時事新報　六月十七日）

●三井吳服店の好案　三井吳服店にては東京大阪横濱等の繁華なる場所に四季交ろく流行衣服の雛形を示さん爲め流行品を着飾りたる婦人給を揭出するの計畫にて先日より新橋停車場に其一例を示したり。

●貞婦　中蒲原郡日本岡村大字本所小幡勝次郎妻セイの操行に對し同縣知事は左の如く行賞されたり

新潟縣越後國中蒲原郡日本岡村大字本所

小幡勝次郎妻

せい

資性柔順舅姑に事へて孝明治十七年夫勝次郎家產を傾け他出以來能く貞操を守り家事を一身に負ひ幾多辛酸を嘗めて舅姑に奉持し數兒を撫育す明治三十二年中舅姑相繼て病死す其病床に在るや看護懇到操行渝らざる玆に十五年一日の如し洵に奇特とす依て爲其賞金貳圓下賜候事

明治三十三年五月廿七日

新潟縣知事正四位勳三等　勝間田稔

(◎女學雜誌第四百八十九號　前號より巖本氏の筆に成る續海舟餘波を揭く雜誌全體の調子も稍々高强となり讀むへきの文字多し　（國民新聞、六月十五日）

海舟餘波批評（第四回）

○海國少年（第三年第六號）

身を順境に置きて天下の事を謀る猶ほ俊傑の士にあらざれば能はず、身は逆境に立ち、内外疑惑の衝に當りて國家に盡し、主家を救ふ、至難中の至難なり、而して故海舟翁は實に之を爲せり、之れ余輩が翁を以て近代の偉人と爲す所以也、且つ夫れ胸に大義を抱き、天人相合を樂むの襟度に至りては、唯驚歎の外なきなり、本書は巖本氏が十餘年來、故翁に親炙し、隨聽筆記して保存せられたる者、世の著作と其撰を異にす、一讀恰かも故翁の偉風英姿に接し、其清談高話、耳底に髣髴たるを覺ゆ

○山陽新報（五月十八日）　長澤別天君

「海舟餘波」とは、故海舟翁の口授をば、先輩巖本善治君の筆記したるもの、翁の面目躍々として現はる。德富蘇峯氏が、この書を目して、海舟文學中の最善なるもの也と云ひしは當れり。我れ曾て海舟翁を大野狐精なりといへり、此說今も疑はず大野狐精なる哉、大野狐精なる哉。海舟逝て後、世間また大野狐精を眞似る者だもなし。天地寂にして寞。

○萬朝報（六月十四日）　内藤虎南君

巖本善治氏、海舟翁の生前に於て親炙甚至、毎週一二次、必ず翁の門に詣りて、其の縱談を聞き、歸れば則ち筆記し、裒めて巻を爲せり、翁の逝くや、其中數條を抄錄して、以て印刷せる者、即ち此書也。此種の書、前に已に世に出づる者あり、唯だ此書最も其萃に拔く者と稱すべく、之を讀めば翁を知らざる者も、髣髴として其の聲音を聞き其の機鋒に接する想あり、蓋し筆記する人の識見あり、且つ其の親炙日久しきの効なり。海舟翁に關する吾輩が意見は、其の逝去の當時、聊か之れを漏せしことあり、吾輩は此書によりて、益す吾輩の翁を偉とする所以の謬まらざるを證することを得、誰れか此の一卷小册子、以て海舟翁を盡すに足らずと謂ふや。

巖本善治編

再版　海舟餘波

一册金三十錢
郵税金四錢
郵券代用
金三十七錢

海舟先生在世の日、編者毎週其門に趨りて清話を聽き、歸つて直ちに筆記し、一々其眞面目を書留めたる者、今殆んど堆を成せり。蓋し世上大率れ幕臣の勝安房守を傳えて、偏えに其苦功を發す、素より是れ可ならざるに非ずと雖とも、先生苦心の存する所、寧ろ其幕府を明渡すにあらずして、反て明治新政府の維持建設にあり。但夫れ先生能く形跡を沒し、功名を讓り、巧に韜晦して屢々の評を避くるの故に、當代多く之を知さる耳。今や先生一去して、亦之を秘するの要なし。此書、主として此般の消息を傳ふ。坊間既に一二の著者あり、略ぼ其梗概を言へる者の如きは、此書皆省き、凡そ先生の事業言論にして未だ曾て世に出でず未だ曾て世の思到せざる者を輯收す。悉皆編者親しく聞く所にして、毫も他子の文を加えざる也。又別に先生の寫眞を添ゆ。是れ最近の撮影に係り、コロタイプによつて製作す、銅版鉛版をもて比す可らず。眞采歷々、光姿爛々として面あたり接するが如し。又先生修辭の文稿一篇を寫眞版に附し併て添ゆ。是昔し山岡鐵舟長逝するの日　先生自ら偈を作て弔する者、其辭悲痛、逸人知己を惜むの情、流露澎湃す今ま斧削の痕點々視るべく、眞に一代の珍なり。如今再版成り正に發賣す。同好の士希くは一讀を賜へ。

東京巣鴨村庚申塚
女學雜誌社

故若松賤子女史譯述

再版　小公子

全一册洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵税八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十百回、一代の流行を左右して一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、德に儔あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を棄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝと切なり。即ち玆に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、郷友松井昇氏は插畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

大賣捌　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治二十五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治二十五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY